HITACHI

シンプルがいいね、技術も。

近年、"技術"はますます高度で複雑になってきました。専門知識を持った人や経験を積んだ人でなくては扱えないような機械もふえています。でも本来機械は、誰もが気軽に使えるものであるべきでしょう。これからの技術には単純明快なわかりやすさが必要なのです。いま日立はインターフェイスという言葉のもとに、人間と技術とのよりよい関係、誰もがかんたんに使いこなせる技術の実現をめざして研究・開発をすすめています。

技術との自由な対話

Interface

株式会社 日立製作所　宣伝部 〒101 東京都千代田区神田駿河台四丁目6番地　TEL東京(03)258-1111(大代)

●第9回世界学生選手権大会●

日本は12位

ルーマニアが五連覇を飾る

第9回世界学生選手権大会は、6月15日から23日まで西ドイツのフランクフルト、ダルムシュタット市などで16ヵ国が参加して開催された。日本代表はよく健闘したが、予選リーグでアメリカに1点差で敗れるなど惜しい試合を落とし、結局12位に終った。優勝はルーマニアで、実にこれで五連覇を達成した。

第9回世界学生選手権大会に参加して

幾多の苦難を乗り越えて

団長　中沢重夫

世界学生選手権大会への参加

第1回大会は昭和38年スウェーデンで開催され、日本ハンドボール協会の強いすすめにより出場、個人負担70万円という当時としては大変巨額の費用の分担を出場した選手を中心とし各大学当局、チームメート、OB会の拠出によって達成をはかった。一方学生連盟は、この参加資金の一部にと、東京体育館に4大学ブラスバンド部の友情出演をメインとした大ダンスパーティーを開催し、費用づくりをはかった。

このつらい苦労が尾を引いてか、以後10年余にわたり出場見あわせの空気が支配した。しかし、ここまでして参加した全日本学生チームの持ち帰った〝オミヤゲ〟は大きく、以後、日本ハンドボールの競技内容を一変させ、ハンドボール地図の色の入れかわる糸口ともなったのである。当時ヨーロッパを風靡していたハンドボール技術も、この頃をピークとしユーゴスラビアが世界を制する頃には様相が変り、今日の世界のハンドボールの流れを迎えているのだと思われる。日本は未だに前のままの箇所がいくつか見られるのは考えさせられることである。

第6回大会（ルーマニア）から再び参加を計画し、出場を果たした全日本学生チーム（藤松博団長、田中秀夫監督）も、この出場により世界学生大会としての意義と意欲を、まのあたりに見、肌に感じ帰国し、世界の流れに乗り遅れるべきでないと報告したのが今回まで連続出場をする大きなキッカケとなった。

一方、日本では国際学生スポーツ連合（FISU）に加盟する、日本ユニバシアード委員会（JUSB）の委員長に古橋広之進氏（現水連会長）が着任することにより、この委員会（主としてユニバシアード大会参加を目標としての任務）の動きが活発となり、また長い期間開催されなかったユニバシアード大会が再び多くの開催立候補国が出現するにおよび、世界のまた一つの流れが生じたと見てよいだろう。時を同じくし、あるいは世界の流れを感じとったか、日本体協の競技力向上委員会（福山委員長）は古橋委員長とはかり、学生スポーツの活力と向上なくして日本スポーツ界の蘇生はないと主張し、全国の各大学学生部長を招き、これらの方に強く協力を要請すると共に、ユニバシアード大会の強化へのテコ入れや、同大会の日本での開催にも力を入れ（当初名古屋開催がウワサされ、これがかわり神戸ユニバシアード開催される）、併せて日本ユニバーシアード委員会の出した単独開催種目（ハンドボール、サッカー、卓球、柔道etc）にも補助を与えるべきであるとの方針も了承された。

前回の、第8回世界学生ハンドボール大会（フランス）は日本体協始まって以来単独開催種目としては初めて補助金が交付された。今回も前回にならって参加補助金の承認を得ている。

「世界学生選手権への道」

世界学生選手権もヨーロッパで考えられ、育っただけに、ヨーロッパ的発想が中心で計画され開催されている。世界選手権（ワールド）とジュニア世界選手権の両方にまたがる形で世界学生選手権が位置づけられている。今回の参加各国も3～5割前後のナショナル選手が加っており、東欧諸国は特にその割合が多い。ヨーロッパの学生は日本の様に大学を4年間で卒業するものとはぜんぜん考えておらず、むしろ、8年間の課程であると考えておるのでないかとさえ思う。それは大学というものそのものの位置づけた考えであろう。一方これをうまく（考え方によってはズルく）利用して選手強化を計っておる国もまたある（世界学生の参加資格は、28歳未満、大学卒業後2年未満、大学院生、社会人でもこれの範囲内で参加資格はある。但し、いずれも国（文部省）の証明書が必要）。日本では

日本代表選手団

〈役員〉

団長	中沢重夫	（芝浦工大OB）
監督	大西武三	（筑波大OB）
コーチ	宍倉保雄	（大体大OB）
総務	榎本良三	（駒沢大OB）

〈選手〉

GK	花田雅人	（同志社大4年・21歳）
	山本隆司	（仙台大4年・21歳）
	吉田　修	（日大3年・20歳）
FP	朝生和光	（筑波大卒・22歳）
	中沢達彦	（日体大4年・21歳）
	武田大伸	（日大4年・21歳）
	平林義規	（慶大4年22歳）
	木切倉良昭	（福岡大4年・21歳）
	綿引　智	（国士館大4年・22歳）
	佐久間良幸	（大体大4年・21歳）
	河原隆雅	（中部大4年・21歳）
	江沢直人	（中央大3年・21歳）
	山村敏之	（大体大3年・20歳）
	岡　伸一	（日大3年・20歳）
	橋本二次夫	（日体大2年・19歳）
	斎藤慎太郎	（日体大2年・19歳）

〈滞同国際審判員〉

岡本研二	（京都大OB）
清水宣夫	（筑波大OB）

このあたりの発想がちがい、大学生活は4年間という考えが強い。従って2回連続して世界学生選手権に参加する者というのは余りない。これらを考えて選手強化、継続的チーム作りを考えなければならないのである。

第7回大会（ポーランド）に参加して特にそれが考えられ、

①選抜チームとしてのチーム作り、

②参加費用の個人負担にからむ選手選考とその結果生ずる意識、

③ヨーロッパで開催されることの多いこの大会の選手の体調作り、

④他国チームの内容の情報の不足。

参加する以上最大の協力を傾注してこそ得るものがあると思う。あれやこれやと欲張るわけにはいかないが、最善の努力をつくす様図るべきである。それは挫折感とのたたかいであるかもしれない。

第8回（フランス）にはこれらを出来るだけ解消する様計画し、努力を払って参加したのである。そして死力を尽くして7位の位置を獲得した。

第9回大会（今回）は、さらにと早く準備に入ったものの大会の開催予定が国際情勢で大幅に遅れたのもあって、焦点がぐっと後へズレたため少々ボケてしまった感もなきにしもあらずである。しかし勝っても負けても1点という僅少の所まで追いついており、今後のたゆまぬ努力が目標の6位以内入賞という大目的のため頑張って欲しいと思うし、可能性もあると見る。

これからもっともっときつい課程を経ねばならぬだろう。学生にはまず学生自らの勉学と試験、教育実習や就職という本来の目的があり、そして各チームの合宿や練習予定、リーグ戦や国内の選手権への参加、一方ナショナルチームや、ジュニアナショナルに入っておるものは、それなり合宿や遠征計画がなされる。これらのあい間をぬって全体学生のチーム作り計画には大変工夫を要することである。また学生チームの合同練習や合宿にかかわる参加経費は個人負担を前提としており、学連からは僅かな補助しか与えられぬ現状は、選ばれた選手たちにとって、過重なものであると考えられる。

学生選手権である以上、学生でなくてはならないし、強いて卒業後2年以内を適応しても卒業生（社会人）を加えた時の練習計画はまた一層難かしくなることも事実である。今後この様な事実をよく踏まえた上で世界学生選手権への道を考える必要がある。

最後に、沢山の学連登録選手の中で、ほんの一握りの選ばれた者が世界の壁にチャレンジするのであるから、選手は日本代表としての自覚を充分に持って欲しいし、また周囲の方々も厳しく注文を与え育てて欲しい。また一方、これら選手がどんな辛酸をなめて、国と国とのぶつかりあいのため死力を尽くしておるかを理解していただき、暖かい思いやりも与えてやって欲しいと念願する。

写真上、西ドイツでの交流試合の後両チーム揃っての記念撮影。下、ルーマニア対ソ連の決勝戦。ルーマニアは見事五連覇を飾った

第9回世界学生選手権大会に参加して

わずかな差が大きな差を呼ぶ

監督　大西武三

世界学生選手権参加国の現状

前回のフランス大会から約3年半経過し、日本の選手は全て入れ替って参加した。世界学生に参加したのは、5回目であるが、全て新しい陣容で参加している。日本の現状としてはそうならざるを得ないからである。

ところが、欧州のチームを見ていると、決してそうではなく、前回の参加者もかなり出場しているのである。優勝したルーマニアには、世界的なプレーヤーであるスティンガー（前日まで練習していたが、選手権にはケガのため出場しなかった）やGKのブリガンなど、2位のソ連からは、82年の世界大会で活躍したガギンやバシリエフ、GKのイチェンコなどが出場している。参加資格である卒業後2年、28歳までという規約は、欧州の大学の現状に見合ったかたちでつくられたためであろう。日本の「学生」というイメージからはかなりかけ離れたものとなっている。日本でいう学生は22～23歳であろう。28歳の学生というのは想像しにくいものである。欧州では28歳の学生というのはザラにいるのである。日本チームの世話役3人のうち2人は30を越えており、結婚もしていた。教育制度が日本と違うのだから、同じ基準で考えるわけにはいかない。選手の年齢を平均すると3歳くらいの差があるのではと思われる。

西ドイツチームの年齢を見てみると21～28歳までの間に散らばっており、平均24歳である。この年齢構成は、別のみかたをするとナショナルチームの年齢構成に合致するものとなっている。21歳～22歳では、ごく少数がナショナルに入れる年齢であるが、28歳までのばすとスッポリと入ってしまうというのが、ハンドボールのナショナルチームの構成ではないだろうか。即ち、欧州のチームは、ナショナルチームのうち学生でない者を省いてチームを構成してくることが出来るのである。したがって、監督もコーチもナショナルチームの者である。地域のクラブを主体として、競技スポーツが発展している欧州と学校、会社が主体となって競技スポーツが発展している日本との違いがここでも顕著に現われている。各国の選手の実情を正確に知ることが出来ないが、西ドイツの選手の場合、全てブンデスリーグ（日本リーグ一部）に所属する選手から成り、ロス・オリンピック経験者は7名である。

参加の意義

欧州トップレベルのチームは、まず参加の意義を来年スイスで行なわれる世界選手権においている。学生ナショナルとナショナル選手とが、かなりだぶっているのであるから当然のことであろう。しかし、欧州とは様子を異にしている日本は、どこに参加の意義を求めるかは大きな問題である。

私は各国の現状は異っていても、日本の参加の意義は、非常に大きいものがあると思う。それは、学生が国際大会に参加する機会が、これ一つであり、この大会に参加しなければ、国際的な競技力が、どの位置にあるかわからないからである。日本のナショナルチームを背負っていくのは、学生であり、その学生に国際大会を踏まさないとすれば、ナショナルチームは一歩低い位置から出発しなければならないことになる。学生の弱体化はナショナルの弱体化につながることになる。学生界全体が一つになって活動出来るのは、今やこの大会一つであり、努力のいること

オーストリアとの順位決定戦。シュートを打つのは中沢

ではあるが、なんとしても継続して参加していくべきであると思う。

入賞の可能性

ナショナルの男子は、世界大会で6位以内に入ったことがない。優勝とかベスト3とかいう前に、入賞することをまず第一に考えなければならないのではないか。韓国はこの大会に初参加ながら、6位入賞をし、先を越された感じがする。ソウル・オリンピックに向けての強化のあとがありありである。

日本は今回、予選リーグで1勝2敗、準決勝リーグで1勝2敗、順位決定で負け、結局、16チーム中12位という成績に終わってしまった。予選リーグでアメリカに1点差で負けた試合、準決勝リーグでブルガリアに1点差で負けた試合、そして順位決定でオーストリアに2点差で負けた試合の3試合は、もう10日間程合宿で強化していれば勝てる所までいったのではないかと思う。

おそらくあと1～2週間合宿すれば、パスミスなどの単純ミスは少くとも3個は減っていたのではないかと思われるからである。実際には出来る範囲で合宿をしてきたつもりであるが、今からして思えば、そう思われるのである。

延長で1点を争う大熱戦を演じた西ドイツ対ユーゴの3位決定戦

体力的なハンディを負う日本は、攻撃の確率を出来るだけ高くし、ボールを持てば必ず1点の攻撃力をつけることが大切であると考えて強化をつづけてきた。勿論、積極的な防御で失点を防ぐことも当然大切なことではあるが、まず現代のハンドボールでは20～30点はどんなにいいディフェンスをしても入れられるであろう。それより、55～60回ある攻撃のうち、シュートを打たないままにボール保持を失うようなミスがなければ、30～40点をとれることは間違いない。そういうミスをなくす攻撃をつくり上げるのは、そう簡単なことではないが、コーチングスタッフと選手が努力を重ねれば不可能なことではない。

今回に限っていえば、「ここで一本」という時に必ずミスが出るのである。こちらが、そのパスさえ通せば、簡単に速攻のシュートが決まる時にパスミスするとか、オーバーステップするとかで、本当に残念きわまりないものであった。6試合戦って、相手よりミスが少ないという試合はなく、オーストリア戦のみが、同数のミス数であった。幸いにして勝ったイタリア戦でも、相手のミスの倍以上であり、よく勝てたものだと思われるが、この試合では、異常に高いシュート成功率によって救われたものである。せめて3本ミスが少なければ、アメリカ、ブルガリア、オーストリアに、結果論ではあるが勝てていたと思う。今ゲームをふり返って、かえすがえすも残念でならない。特にアメリカ戦では、本当に惜しい星を落としてしまったと思う。勝ってれば、ベスト8に入れたものを、試合というのは、わずかな差が大きな差を呼ぶことをまたしても思い知らされた。

ルーマニア戦は、精一杯の戦いであったが、実力差はいかんともしがたく、日本チームのすくいとすれば、ルーマニアが力を抜かずに必死のプレーで応じてくれたことである。

この試合では、トップレベルチームの技術・体力のものすごさを体験することが出来た。

最後に

皆様の期待に応えられず、残念な思いで一杯ですが、コーチングスタッフ、選手が、最後までまとまり合って試合、遠征を終わることが出来ましたことは、一つの大きな喜びでありました。

暖い皆様の御声援に感謝して報告を終えさせていただきます。

第9回世界学生選手権大会成績

◎予選リーグ

▼A組

ユーゴ 37 (19-14, 18-22) 36 韓国
ブルガリア 31 (15-9, 16-9) 18 ブラジル
ユーゴ 38 (19-13, 19-13) 26 ブラジル
韓国 25 (10-11, 15-14) 25 ブルガリア
韓国 39 (20-12, 19-12) 24 ブラジル
ユーゴ 17 (8-8, 9-8) 16 ブルガリア

[順位] ①ユーゴ②韓国③ブルガリア④ブラジル

▼B組

ルーマニア 31 (15-9, 16-7) 16 アメリカ
日本 24 (10-8, 14-15) 23 イタリア

(会場・ビュール)

[得点] 平林6、朝生、河原、山村各4、武田、佐久間各2、中沢、綿引各1。

ルーマニア 31 (18-7, 13-11) 18 イタリア
アメリカ 23 (14-12, 9-10) 22 日本

(会場・サンドワイヤー)

[得点] 山村6、河原5、中沢4、朝生3、武田2、平林、佐久間各1。

ルーマニア 35（15―6、20―14）20 日本
（会場・スチュワルド）
〔得点〕平林8、朝生4、河原3、山村2、中沢、武田、木切倉各1。
アメリカ 24（13―12、11―12）24 イタリア
〔順位〕①ルーマニア②アメリカ③日本④イタリア

▼C組
ソ連 29（12―12、17―10）22 ポーランド
オーストリア 22（11―10、11―5）15 トルコ
ソ連 37（18―9、19―7）16 トルコ
ポーランド 24（11―7、13―10）17 オーストリア
ソ連 27（15―10、12―10）20 オーストリア
〔順位〕①ソ連②ポーランド③オーストリア④トルコ

▼D組
アルジェリア 17（7―8、10―8）16 フランス
西ドイツ 41（22―3、19―7）10 フィンランド
フランス 28（13―14、15―6）20 フィンランド
西ドイツ 21（8―5、13―9）14 アルジェリア
西ドイツ 25（13―10、12―7）17 フランス
アルジェリア 24（10―10、14―7）17 フィンランド
〔順位〕①西ドイツ②アルジェリア③フランス④フィンランド

◎下位リーグ
▼1組
ブルガリア 22（14―10、8―11）21 イタリア
日本 28（13―14、15―11）25 ブラジル
（会場・リエクスベルク）
〔得点〕平林11、朝生6、山村4、中沢3、河原2、武田、佐久間各1。
ブルガリア 24（11―13、13―10）23 日本
（会場・オットワイヤー）
〔得点〕平林7、朝生6、綿引4、河原3、山村2、木切倉1。
イタリア 25（13―15、12―10）25 ブラジル
※日本―イタリア、ブルガリア―ブラジルは、予選リーグの記録を適用。
〔順位〕①ブルガリア②日本③イタリア④ブラジル

▼2組
オーストリア 28（17―12、11―12）24 フィンランド
フランス 24（11―8、13―11）19 トルコ
フランス 17（7―4、10―13）17 オーストリア
トルコ 29（13―17、16―6）23 フィンランド
※フランス―フィンランド、オーストリア―トルコは、予選リーグの記録を適用。

◎準決勝リーグ
ユーゴ 24（16―10、18―11）21 アメリカ
ルーマニア 48（24―21、24―15）36 韓国
韓国 43（22―19、21―14）33 アメリカ
ルーマニア 29（18―14、11―11）25 ユーゴ
※ルーマニア―アメリカ、ユーゴ―韓国は、予選リーグの記録を適用。
〔順位〕①ルーマニア②ユーゴ③韓国④アメリカ

▼2組
ソ連 28（16―7、12―8）15 アルジェリア
西ドイツ 29（14―10、15―10）20 ポーランド
ソ連 26（15―8、11―12）20 西ドイツ
ポーランド 26（14―13、12―9）22 アルジェリア
※ソ連―ポーランド、西ドイツ―アルジェリアは、予選リーグの記録を適用。
〔順位〕①ソ連②西ドイツ③ポーランド④アルジェリア

▼15、16位決定戦
ブラジル 21（8―13、13―7）20 フィンランド

▼13、14位決定戦
イタリア 25（12―11、13―10）21 トルコ

▼11、12位決定戦
オーストリア 26（14―13、12―11）24 日本
（会場・ダルムスタット）
〔得点〕中沢9、平林6、朝生4、武田3、河原2。

▼9、10位決定戦
ブルガリア 22（12―12、10―8）20 フランス

▼7、8位決定戦
アルジェリア 20（5―10、15―4）14 アメリカ

▼5、6位決定戦
ポーランド 41（18―15、23―14）29 韓国

▼3、4位決定戦
西ドイツ 24（1―1、2―1、12―9、9―12）23 ユーゴ

▼決勝
ルーマニア 23（9―13、14―7）20 ソ連

◆遠征中の交流試合結果
▽6月8日
全日本学生 36（16―12、20―8）20 ケーニヒスウインター
▽6月9日
西ドイツ学生 39（20―9、19―11）20 全日本学生
▽6月11日
全日本学生 34（18―12、16―11）23 カールスルー工大学選抜
▽6月12日
全日本学生 25（10―12、15―11）23 TV・エッゲンシュタイン
▽6月13日
全日本学生 27（12―14、15―7）21 マルシェ

第9回世界学生選手権に参加して学んだこと●選手たちの感想文から

スピードとパワーに対抗するものは集中力である。

●山本隆司●

我々、全日本学生選抜チームは、6月15日から西ドイツで行なわれた第9回世界学生選手権大会に出場したわけだが、試合を消化するたびに大きな壁にぶつかった。

まず最初にスピードの違いだが、世界のプレーヤーたちは、身長は2m前後、体重は100kg前後と我々日本人よりもはるかに大きいのにもかかわらず、我々よりきれるフェイントや足をもっている。6月17日に行なわれた対ルーマニア戦がいい例で、速攻はどんどん出るし、ワンフェイントで簡単に抜かれてシュートまでもっていかれてしまった。

二つめはパワーであるが、この点が日本選手にはどうにもならない壁である。先に述べたとおり、外人は日本人よりはるかに大きく、不利な体制でも片腕だけで我々よりはるかにスピードのあるシュートを打つし、走り出すとディフェンスが2人もついているのにふりまわし、あげくのはてにはこちらが警告をとられるしまつである。そのいい例が6月16日の対アメリカ戦で、日本チームが、一生懸命走り、フォーメーションを使いやっと1点取って帰ってくると、そのすぐ後にアメリカ選手が苦しまぎれに打ったシュートが簡単に入ってしまい、技術力では、日本の方が数段上なのだがパワーの差で負けるという苦い思いをさせられた。

しかし、日本選手もまったく歯が立たないわけではない。ゲーム中において相手チームより少しでも長く集中し、相手側フェンスを9mの中に入れないようにし、ポストに対しては2人の人間がすばやく反応しディフェンスを行なうことによって、15日のイタリア戦や、19日のブラジル戦のように勝利をおさめることも出来た。しかし、少しでも集中力に欠ければ、ブルガリア戦やオーストリア戦のように苦杯をなめることになる。

以上のようなことから、日本人が外国チームに勝利をおさめるためには、最大限のフットワークと『最大限の集中力』を発揮することだと思う。

世界と日本のハンドボールを比較して

●平林義規●

結果は12位と必ずしも満足出来るものではなかった。しかし、世界のハンドボールを〝なま〟で見、また接することが出来たのは非常に幸運であった。

ところで、私自身、以前にも日本以外のチームとたびたび試合をした経験があるが、毎回考えさせられることがある。それは体格の差である。そのギャップを小さくするのが世界と日本のハンドボールの差をなくすことになると思う。その方法は多々考えられる。たとえば、スピード、テクニックに関して日本は決して他のチームにひけを取らない。むしろ優っている。ならばその優位な点を生かして試合を運べば世界でも勝てるのではないか。しかしそう簡単にはいかない。なぜならディフェンスをしなければいけないからでる。日本の優っている2点は、必ずしもディフェンスでは生きてないのだ。私自身また今回選手権に参加した全員が痛感したであろうが、2点がなかなか守り切れない。決して手を抜いたり集中力が欠けたりしているのではない。頭上はるか上をパスが飛び、正面で守ったつもりが退場になる。何度同じ手で苦い思いをさせられたことだろう。しかし、このディフェンス面での体格差というのは日本のハンドボールが背負わなければならない宿命、そして命題である。

答えは容易には見つからないだろう。しかし、190台をずらりとそろえた西ドイツに対等に闘った小さなユーゴチームを見たとき「なんとかなるのでは」とわずかに光明がさしたここちがした。ユーゴを真似しろというのではないが、日本の独特なディフェンスシステムを本当に考えなければならない時にきていると思う。

ゴールキーパーについて

●吉田　修●

今回、この大会で初めて世界のハンドボールを見ることが出来、また、実際にプレーすることが出来たわけですが、まさに「百聞は一見にしかず」そのものでした。外人のプレーはすごいすごいとは聞いていましたが、これほどとは思いませんでした。それだけに、国内で行なっている感覚でやってはフィルドプレーヤーもだめでしょうが、特にゴールキーパーは考え方を大きく変えなければならないと思いました。たとえば、日本ではロングシュートを片手で取ることが多いけれども、外人相手で片手で取ろうなどということは、とんでもないことなのです。なぜなら、外人は、体は大きい、手は大きい、腕は太いといった具合で、外人がハンドボールを投げるということは、日本人がソフトボールを投げる感覚に等しいのです。だから、片手で取りに行こうものなら、よほどい所に当たらない限りはじかれてゴールに入ってしまいます。また、ボールのスピードもかなり速いので、少しでも反応が遅れようものなら、もうボールはゴールの中なのです。その上、ジャンプ力はあるし、テクニックも持っているといった具合で、ゴールを守るのは非常に難かしいのです。

さて、それではこのような中で外国のゴールキーパーはどのようにキーピングしているかということを、自分なりに思ったことを述べたいと思います。今回の大会は、どのチームも優秀なキーパーを連れて来ましたが、特に、ベスト4に入るチームのキーパーはすばらしく、数多くの好守を見せていました。ルーマニア、ソ連、西ドイツのキーパーは190cm以上の大型で、ユーゴのキーパーは185cmぐらいでしたが、いずれのキーパーも片面を確実に取るようなキーピングをしていました。それも出来るだけギリギリまで我慢して瞬間的に体全体を使ってつぶしに行く型が多かったように思いました。特にユーゴのキーパーの反応はすばらしかったです。また外人のゴールキーパーは、ムードに乗るのが非常にうまいように思いました。特に西ドイツのキーパーは、チーム

が波に乗り出すとガンガン取っていました。また外人は、表情をむき出しにして闘志をかき立てているようでした。

　びっくりしたのはアメリカのキーパー。いきなり攻撃に参加して、シュートを打ちに来るのです。今後このようなプレーも多く出てくるかもしれません。

　以上、大ざっぱに気づいた点を述べて来ましたが、今大会では、チームは残念ながら12位に終わりましたが、数多くの優秀なプレーを自分の目で見れただけでも、大きな収穫だったと思います。

「勝者」と「敗者」

●山村敏之●

6月6日に西ドイツ・フランクフルトに到着して以来本大会までの1週間、調整とヨーロッパのプレー、レフェリーの笛に慣れる為に5～6試合を経験した。その中でも、今大会3位に入賞した西ドイツと試合が出来たのは本大会前に良い経験になったと思う。あの大きさ、パワー、スピード、シュート力は、さすが西ドイツナショナルだと実感しました。

　そして本大会に入り、予選リーグ、イタリア、アメリカ、ルーマニアと対戦したのですが、その中でもイタリア戦、アメリカ戦は1点、たった1点の重みをイヤというほど思い知らされました。ハンドボールは得点ゲームなので、後半30分終った時点で得点が相手チームより多くなければ、いくら途中良いゲームをしても敗者であり、試合中「あと1点」「あと1点」と思っても試合が終われば、1点差であろうと10点差であろうと、まわりからは「勝者」と「敗者」にキッパリ区別されることもつくづく実感しました。それと、準決勝、決勝と見学しましたが、自分たちのゲームと比べてミスが少ないことを感じました。一つミスをして相手に得点されると2点損をするわけで、ミスの多いチームは致命的だと思います。

　最後に、帰国してこれから各大学に帰りプレーするのですが、世界学生選手権に出場出来、世界の色々なプレーを自分の体で体験出来、これらのプレーを自分にプラスになるように頑張っていきたいと思います。

高い世界の壁とパワー

●佐久間良幸●

　今大会に参加して、外人勢の体格の良さに驚ろいた。大会前に行なわれた親善ゲームで、西ドイツ学生選手抜チームと対戦した時に彼らの高さとフットワーク、それにパワーに圧倒された形になった。日本とゲームをするということで西ドイツは高さを武器にベッタリと一線防御をひいてくるかと思ったが、大会直前の練習マッチということで、かなり激しいフットワークで、自分たちのパスコースに立たれたり、早いピストンでフリースローになる場面が多く、195cm級の選手にフリースローラインの前までピストンされれば、背の低い日本選手はパスをまわすことさえ難しくなることが多くなり、パスカットや、オーバーステップを取られて逆速攻に多くもっていかれた。彼らはパワーもものすごくて、自分たちのディフェンスをひきずってペナルティーにもっていったり強引なシュートを決められた。西ドイツの選手は、10～13mあたりでロングシュートを狙ってくるが、打たれた時は、キーパーに祈るしかなかった。

　しかし、自分たちより大きな選手ばかりと対戦したが、高さとパワーを補うものが、全くないということもなかったように思ったが、結局、今までの全日本チームやジュニアと同じような失敗をくり返してしまったように思う。イタリア戦には速攻も良く決まり、小さい分をセットオフェンスやディフェンスで声をたやすことなく、また、ボールをじっくりまわしきれたことが勝因につながった。しかし、アメリカ、ブルガリア、オーストリア戦は日本の自滅という感じが強かった。外人相手にセットディフェンスを守り切るのは楽ではないが、守り切った後もミスで点をとられる場合がとても多かった。勝機はいくらでもあったように思う。高い壁のようなディフェンスを利用した。平林さんのクイックシュートや、朝生さんの回り込み、木切倉のブラインドシュートは、優勝したルーマニアにも充分に通用した。日本は背は低いが、低いなりに高さに対抗出来るものは個々に発見出来たと思う。

世界の中の日本のディフェンス

●橋本二次夫●

　6月13日よりドイツで行なわれた選手権で、まず痛感したのが体かくの差である。確かに完全な学生選抜のチームで大会に出場したのは日本ぐらいだが、それにしても足の太さ、手の大きさ、長さすべて大きい。いや「バカでかい」と言いたいぐらいだ。

　さて、その大きさの代名詞と言えるアメリカに第2戦目1点で敗れた。自分の目から見た範囲では、技術だけ取り上げると日本6、アメリカ4の割合で勝っているように見える。しかし、いざ試合の流れと言えば、日本チームが走り回りフェイントカットインで点を取る。しかし、ディフェンスに変わると194cmクラスの選手が大きくクロスしてサイドへずらす。そして高い打点からのシュート。日本の選手は攻撃方法を読んでいても何点となく同じパターンで得点される。

　2月のヨーロッパ遠征でも感じたが、195cm以上の選手を前にすると、日本選手のほとんどが上を見る状態になり腰が浮き、視界が半減する。その最大の欠点をスピード、すなわち「相手へとつめ、そしてもどり、ディフェンス上下左右の動きの早さでカバーしろ」とドイツのコーチにうるさく言われた。

　言われれば確かにそうだとだれもが思うが、完全でない。なおさら外人相手になるとその点が大きく要求される。

　その要求されているディフェンスに対して重点を置いて練習しているかと言えば、そうでないように思える。もちろん自分もである。

　ディフェンスよりオフェンスで点を取る考えが先に立ってしまう。確かにオフェンスはどのチームとやっても一定の点を取る日本チームは、「それ以上に取られた」と感じる事が多い。現実にこの大会で6試合で1点、または2点差が4試合あり、悪くても同点の試合を最後数分に点を入れられ負けた試合が2試合もあった。本当に1点差で大きく順位が入れ変わった大会だった。

　参加選手全員が感想文を出してくれましたが、その中で特徴的なことを指摘していると思われる6人の感想文をここに掲載致しました。

第10回日本リーグ前期

湧永、立石が首位で折り返す

第10回日本リーグ前期は、6月8日に開幕した。

今回のリーグ戦は、すでにみなさん新聞紙上などでご存知のように、開幕日の深夜に大同特殊鋼の田口勝利選手らによる不祥事により、大同特殊鋼が第1戦の三陽商会戦だけを終えて後の公式試合はすべて禁止の処分となったため、男子の方は変則リーグとなった。

リーグ戦の方は、男子は湧永製薬が4戦全勝の首位で折り返し、昨年末の全日本総合で大活躍した大崎電気が、ライバルの日新製鋼、本田技研鈴鹿らを下して3勝1敗の2位で続いた。

一方の女子は、今期から一部は6チームとなったが、立石がライバル大崎電気を降して全勝で折り返し、大崎電気、ジャスコと続き、昨年3位と健闘を見せた大和銀行は調子が出ず、全敗で最下位と苦しい出足となった。

〔前期順位〕

▼男子①湧永製薬（4勝）②大崎電気（3勝1敗）③日新製鋼（2勝2敗）④本田技研鈴鹿（1勝3敗）⑤三陽商会（5敗）

▼女子①立石電機（5勝）②大崎電気（4勝1敗）③ジャスコ（3勝2敗）④日立栃木（2勝3敗）⑤日本ビクター（1勝4敗）⑥大和銀行（5敗）

男子

〔第1週第1日／6月8日〕

▼藤沢市秋葉台文化体育館

大同特殊鋼 28（12—8／16—8）16 三陽商会

○…7名のナショナル・プレイヤーをかかえる大同は2年連続の栄冠を目ざしてのスタートであったが、初戦でもあり本調子のゲームではなかった。エース・関を欠く三陽は前半大同のディフェンスを破れず苦しみ、後半に入ってよく健闘したが、金星をあげることは出来なかった。

大同・蒲生はこのゲームでリーグ600得点を達成し、さらに記録を更新することになった。

得	〔大同〕		〔三陽〕	得
0	上村	GK	大山	0
0	秋吉	GK	内野	0
1	田中	FP	清家	5
8	田口	FP	田口	0
2	高村	FP	砂川	0
2	小野	FP	山口	4
5	市川	FP	石原	0
2	中本	FP	実方	5
1	河井	FP	安藤	0
5	蒲生	FP	河村	2
1	海江田	FP	吉原	0
1	内藤	FP	鍜治	0
28	(3)	PT	(1)	16

（審・斉藤 新木）

▼岩井市総合体育館

大崎電気 21（10—8／11—8）16 本田技研鈴鹿

○…本田の頑張りは前半25分まで。一進一退の展開で前半25分過ぎ大崎・首藤の切れ味の良い連続得点、宮下の力強いジャンプシュートで前半を10—8と大崎リードで折り返した。後半も終始全員元気な大崎のペースで進められた。大崎GK矢内の好守が光った。

得	〔大崎〕		〔本田〕	得
0	岡部	GK	大畑	0
0	矢内	GK	中尾	0
4	松岡	FP	佐々木	2
2	東江	FP	三本松	0
0	武田	FP	田野	0
6	首藤	FP	立木	2
2	中田	FP	尾上	0
4	山本	FP	玉井	0
0	越迫	FP	粟屋	2
0	宮崎	FP	吉山	5
0	星野	FP	坂本	5
3	宮下	FP	内藤	0
21	(3)	PT	(4)	16

（審・横瀬 矢澤）

〔第1週第2日／6月9日〕

▼市川スポーツセンター

大崎電気 21（11—9／10—11）20 日新製鋼

○…前半、一進一退の攻防となったが、大崎は首藤、宮下のロングシュートで先行する。日新も西山のミドルシュートで必死に食い下がるが、大崎の2点リードで前半を終了する。後半10分過ぎに日新は同点に追いつき、13分には1点、15分には2点リードを奪ったが、その後再び一進一退、25分には再度同点となる。残り1分を切って時間切れ寸前、大崎はロングシュートのリバウンドをサイドから山本が決めて劇的な勝利を飾った。

得	〔大崎〕		〔日新〕	得
0	岡部	GK	西川	0
0	矢内	GK	森田	0
5	松岡	FP	森	0
3	東江	FP	徳田	4
0	武田	FP	西山	6
3	首藤	FP	吉見	3
0	中田	FP	甲斐	0
3	山本	FP	藤井	3
0	越迫	FP	日野	0
0	宮崎	FP	堀田	4
0	星野	FP	一瀬	0
7	宮下	FP	高木	0
21	(1)	PT	(2)	20

（審・岡本 清水）

▼栃木市総合体育館

湧永製薬 29（12—6／17—6）12 三陽商会

○…三陽が前半2分田口のシュートで先行、更に清家が右45度からカットインを決めて2—0と三陽がリード。しかし、湧永も玉村、生駒の活躍で逆転、20分過ぎには完全に湧永ペースとなる。後半も今一つペースをつかめない三陽に対し湧永はベテラン山本を中心に生駒、玉村、池ノ上らが着実に加点、29—12で快勝、初戦を飾った。

得	〔湧永〕		〔三陽〕	得
0	大城	GK	大山	0
0	井藤	GK	内野	0
3	池ノ上	FP	清家	2
7	生駒	FP	田口	1
6	玉村	FP	砂川	0
0	藤本	FP	山口	2
0	志賀	FP	石原	0
3	荷川取	FP	実方	5
7	山本	FP	安藤	0
1	奥田	FP	河村	2
0	楢原	FP	吉原	0
2	酒巻	FP	鍜治	0
29	(5)	PT	(1)	12

（審・浜野 山下）

〔第2週第1日／6月15日〕

▼四日市体育館

本田技研鈴鹿 29（16—7／13—6）13 三陽商会

○…本田は立ち上がりから多彩な攻撃で着実に得点を重ね、前半を16—7とリード。後半に入っても本田ペース、佐々木の好リード

もあり、吉山、粟屋がよく走って速攻を決め、要所で立木のロングも決まり守っては大畑の好キーピングで完勝。関を欠いた三陽は攻守に精彩なく本田に押しまくられたが、粘りのある清家のプレーは目立っていた。

得	〔本田〕		〔三陽〕	得
0	大畑	GK	大山	0
0	中尾	GK	内野	0
1	佐々木	FP	清家	5
5	三本松	FP	田口	1
2	田野	FP	坪子	0
8	立木	FP	砂川	0
1	尾上	FP	山口	2
0	玉井	FP	石原	3
2	栗屋	FP	実方	2
5	吉山	FP	安藤	0
3	坂本	FP	河村	0
2	内藤	FP	内野	0
29	(5)	PT	(0)	13

〔審・板倉 岩本〕

【第2週第2日／6月16日】

【第2週第2日／6月16日】

▼松山市コミュニティセンター体育館

湧永製薬23〔14─11 / 9─8〕19日新製鋼

○…前半10分間は日新優位の展開であったが、体格と個人技に勝る湧永が追いつき、常に2─3点差をつけたまま前半を終了した。

得	〔湧永〕		〔日新〕	得
0	大城	GK	西川	0
0	井藤	GK	森田	0
5	池ノ上	FP	森	0
5	玉村	FP	徳田	1
0	藤本	FP	西山	5
2	志賀	FP	吉見	2
1	内田	FP	甲斐	1
6	荷川取	FP	藤井	5
1	山本	FP	日野	1
2	奥田	FP	堀田	4
0	楢原	FP	一瀬	0
1	酒巻	FP	高木	0
23	(2)	PT	(3)	19

〔審・野中 竹村〕

後半に入っても日新は湧永GK井藤の好守と池ノ上をトップに出した1・5ディフェンスに阻まれ追いつくことが出来なかった。

なお、湧永の山本選手は毎試合連続得点の記録をこの試合で87に伸ばした。

【第3週第1日／6月22日】

▼福井県営体育館

日新製鋼21〔11─9 / 10─8〕17三陽商会

○…互いに雑な展開で始まり、前半20分まで4─4という低得点で両者互角かと思われたが、20分過ぎ日新・西山のミドルとPTで一歩先んじて11─9で前半を終了。後半立ち上がり関のミドルシュートで三陽は除々に差を詰め、17分には16─16とするが、日新はGK森田がPTを止めるなど健闘、西山を中心に差をあけ逃げ切った。

得	〔日新〕		〔三陽〕	得
0	西川	GK	大山	0
0	森田	GK	内野	0
2	森	FP	関	1
2	徳田	FP	清家	4
10	西山	FP	田口	1
1	吉見	FP	砂川	3
2	甲斐	FP	山口	1
1	藤井	FP	石原	0
0	日野	FP	実方	4
2	堀田	FP	安藤	0
0	一瀬	FP	河村	3
1	高木	FP	吉原	0
21	(7)	PT	(3)	17

〔審・竹野 越田〕

▼塩山市民体育館

湧永製薬27〔12─10 / 15─6〕16大崎電気

○…大崎は東江などの健闘で前半を再角に戦ったが、後半に入ってシュート力に勝る湧永は、池ノ上、生駒の得点でリードを奪い勝利を握った。

得	〔湧永〕		〔大崎〕	得
0	大城	GK	岡部	0
0	井藤	GK	矢内	0
10	池ノ上	FP	松岡	1
5	生駒	FP	東江	5
1	玉村	FP	武田	1
0	藤本	FP	首藤	2
2	志賀	FP	中田	0
1	内田	FP	山本	5
1	荷川取	FP	越迫	0
4	山本	FP	宮崎	0
0	奥田	FP	星崎	0
3	酒巻	FP	宮下	2
27	(3)	PT	(3)	16

〔審・斉藤 千野〕

湧永対大崎戦、後半に入って湧永が突き放す

【第4週第1日／6月29日】

▼下関市立体育館

湧永製薬21〔12─9 / 9─10〕19本田技研鈴鹿

○…湧永は、前半の立ち上がり生駒、山本、玉村と連続得点し11分で6─2としたが、本田も坂本、立木の得点で反撃、結局前半は12─9と湧永の3点リードで終了。後半、湧永は山本の巧みなシュートで4得点し一気に引き離すかに見えたが、本田もじりじりと得点を重ね、21分には玉井の得点で1点差にまで迫り大いに館内を沸かせた。しかし、湧永はすぐに山本、荷川取の得点で本田を突き放した。

得	〔湧永〕		〔本田〕	得
0	大城	GK	大畑	0
0	井藤	GK	中尾	0
6	池ノ上	FP	佐々木	0
1	生駒	FP	三本松	0
2	玉村	FP	田野	1
0	藤本	FP	立木	7
1	志賀	FP	尾上	0
1	荷川取	FP	玉井	1
8	山本	FP	栗屋	3
2	奥田	FP	吉山	2
0	楢原	FP	坂本	3
0	酒巻	FP	内藤	2
21	(4)	PT	(2)	19

〔審・赤池 山根〕

▼京都市立体育館

大崎電気25〔14─7 / 11─14〕21三陽商会

○…前半は、三陽のミスを拾い速攻で点を取った大崎のペースだった。しかし、後半に入って大崎の動きが鈍くなり、山本、宮下のロングシュートが決まらなくなっ

た。残り3分、三陽はペナルティーを決めて3点差まで追い上げたが及ばなかった。

	[三陽]	得
GK	大山	0
	内野	0
FP	関	4
	清家	3
	田口	4
	砂川	3
	山口	5
	石原	0
	実方	2
	安藤	0
	河村	0
	吉原	0

	[大崎]	得
GK	岡部	0
	矢内	0
FP	松岡	5
	東江	5
	武田	1
	首藤	4
	中田	3
	山木	2
	越迫	0
	宮崎	0
	星野	0
	宮下	5

（審・藤本・福井）

25 (1) PT (2) 21

[前期最終日／6月30日]

▼呉市体育館

日新製鋼 22（9−12, 13−5）17 本田技研鈴鹿

○…立ち上がり本田の詰めの早いディフェンスに日新は攻めあぐんだ。その間に本田はディフェンスの手に当たって入るロングシュートやサイドからのループシュートで得点、7分には3−0とした。しかし、日新も8分に甲斐がサイドシュートを決めてから調子を上げ、18分には同点に追いついた。その後1点を争う展開をしていたが、前半終了前3分に本田が3得点、12−9とリードして折り返す。後半に入って10分には日新は西山の活躍で15−15と同点とし、GK森田の再三の好守で本田の得点を阻んだ。日新は早い動きから徳田、藤井がチャンスを作り、ペナルティーを西山が3本決めて逆転勝ちした。

	[本田]	得
GK	大畑	0
	中尾	0
FP	佐々木	1
	三本松	1
	田野	2
	立木	3
	尾上	3
	玉井	0
	栗屋	0
	吉山	2
	坂本	1
	内藤	4

	[日新]	得
GK	西川	0
	森田	0
FP	森	2
	徳田	4
	西山	9
	吉見	2
	甲斐	2
	藤井	1
	日野	0
	堀田	2
	一瀬	0
	高木	0

（審・中村・古富）

22 (4) PT (2) 17

女子

[第1週第1日／6月8日]

▼藤沢秋葉台文化体育館

大崎電気 31（15−11, 16−10）21 ジャスコ

○…リーグ初戦ということもあって両チームともミスが多く、大崎はシュートが決まらずジャスコに先手をとられていたが、20分を過ぎて逆転、李京姫などが3連続得点をあげ次第に本来の姿を取りもどした。後半に入っても大崎は李京姫、李相玉が得点を重ね、時間の経過とともに差が開いた。

	[ジャ]	得
GK	木村	0
	小深田	0
FP	寺沢	0
	石田	2
	鷲野	0
	伊勢	2
	三木	7
	宮本	3
	十丸	0
	野村	1
	近藤	4
	服部	2

	[大崎]	得
GK	梅野	0
	藤田	0
FP	時實	3
	松尾	2
	宮嶋	4
	石井	4
	沖山	0
	徳渕	0
	塩谷	2
	西村	0
	李相玉	5
	李京姫	11

（審・菊池・羽田）

31 (3) PT (3) 21

▼岩井市総合体育館

立石電機 19（13−9, 6−9）18 日本ビクター

○…前半は、立石が早いパスワークと山内の活躍により13−9とリードした。日本ビクターは、前半下條の活躍が光り、後半中途からGK渡辺の好守で武藤が勢いづき、残り1分には19−18と1点差に追いすがる好ゲームを見せた。

	[日ビ]	得
GK	渡辺	0
	小口	0
FP	中根	2
	門脇	0
	武藤	4
	長田	5
	遠藤	1
	下條	6
	平松	0
	根本	0
	宮川	0
	太田	0

	[立石]	得
GK	荒木	0
	竹下	0
FP	是枝	0
	近藤	2
	亀園	3
	岩村	1
	池上	3
	江口	2
	山口	0
	山内	4
	野嶋	3
	ビスニッチ	2

（審・上久保・北井）

19 (3) PT (2) 18

[第1週第2日／6月9日]

▼市川市民体育館

大崎電気 33（16−7, 17−12）19 日本ビクター

○…立ち上がり両チームとも固さが目立ったが、2−2の4分過ぎ両李のロングで大崎が主導権を握り、7分から5点を連取して9−3とすると、その後もロング、ポスト、速攻と攻めて日本ビクターを圧倒、16−7で前半を終えた。後半、日本ビクターは武藤の4連取で反撃のムードを作るが、李相玉のステップ、李京姫のロングで大崎が安定したゲーム運びを見せふり切った。

	[日ビ]	得
GK	渡辺	0
	小口	0
FP	中根	2
	門脇	1
	武藤	8
	長田	4
	遠藤	0
	下條	1
	枝川	0
	根本	2
	宮川	1
	太田	0

	[大崎]	得
GK	梅野	0
	大西	0
FP	時實	2
	松尾	1
	宮嶋	3
	石井	6
	沖山	3
	徳渕	2
	塩谷	0
	西村	1
	李相玉	5
	李京姫	10

（審・島田・浜田）

33 (3) PT (0) 19

▼栃木市総合体育館

日立栃木 19（8−8, 11−7）15 大和銀行

○…前半、日立のシュートミスを大和が速攻で得点、勢いに乗るかと思われたが、日立も土屋、前田が反撃、互角の展開となる。結局、前半は8−8の同点で折り返す。後半も10分過ぎまでは一進一退の互角の展開だったが、日立は14分、井沢のサイドからのゴールをきっかけに手打、井沢、吉田らが着実に加点、23分過ぎには18−12と大量リードを奪い、前回の雪辱を果たした。

両チームともにミスの目立つゲームであり、今一つ盛り上がりに欠けた。

	[大和]	得
GK	高浜	0
	増見	0
FP	秋成	4
	上西	3
	川添	0
	若水	4
	植田	0
	天谷	1
	前田	0
	丸田	1
	佐々木	0
	上村	2

	[日立]	得
GK	葛生	0
	岡本	0
FP	手打	1
	前田	5
	清水	0
	土屋	2
	吉田	3
	山岸	1
	井沢	7
	山口	0
	中村	0
	尾苗	0

（審・住尾・広沢）

19 (2) PT (3) 15

[第2週第1日／6月15日]

▼岡崎市体育館

大崎電気 28（18−9, 10−8）17 大和銀行

○…立ち上がりから大崎電気は李相玉のパワフルなシュート、また固い防御からの速攻が次々に決まり、ゲームの主導権を握る。一方大和銀行は、秋成を中心に必死の反撃するもののセットオフェンスで攻めあぐみ、苦しい展開となる。地力に勝る大崎は、前半の点差を確実にキープ、大差で勝利を収めた。

	[大和]	得
GK	高浜	0
	増見	0
FP	秋成	2
	上西	1
	川添	0
	若水	2
	植田	3
	天谷	5
	丸田	3
	西野	0
	佐々木	1
	上村	0

	[大崎]	得
GK	梅野	0
	藤田	0
FP	時實	6
	松尾	0
	宮嶋	2
	石井	3
	沖山	1
	徳渕	1
	塩谷	0
	西村	1
	李相玉	7
	李京姫	7

（審・上久保・北井）

28 (3) PT (1) 17

▼四日市市体育館

立石電気 19（11−6, 8−8）14 ジャスコ

○…ジャスコは、近藤がペナルティーを決めて先制したが、立石はすぐにビスニッチがロングでタイとした。その後は追いつ追われつの接戦だったが、20分、6−6で立石が連続退場者を出したが、攻めをあせったジャスコが凡ミスをくり返す間、立石は3連続得点してペースをつかみ、前半を11−

6とし、そのまま押し切った。

[ジャ]得 0 0 2 2 0 2 3 0 0 3 1 1
村田沢田野勢木木村藤部岡
木小深寺石鷲伊三宮野近服高
GK　FP（審・川島　森）
[立石]木下枝藤園村上口内嶋
荒竹是近亀岩池江山野ビスニッチ長谷川
得 0 0 0 2 2 2 1 1 4 3 4 0
14　(3)　PT　(4)　19

【第2週第2日／6月16日】

▼岡山県体育館

立石電気25（15 10／10 9）19大和銀行

○…立石・ビスニッチのシュートによって始まった試合は、大和・秋成の得点などで一進一退のゆっくりとしたペースで展開。結局立石が野嶋の活躍などで1点をリードして前半を折り返す。後半も一進一退のゲームで進むが、7分ビスニッチの得点から立石がペースをつかみ、残り10分ビスニッチをはずす余裕を見せて勝った。

[大和]得 0 0 9 1 0 2 1 1 4 0 1 0
浜見成西添水田谷田木村瀬
高増秋上川若植天丸佐々上赤
GK　FP（審・赤池　山根）
[立石]木下藤園村上口内嶋
荒竹近亀岩池江山野ビスニッチ長谷川
得 0 0 1 3 1 2 3 0 0 9 5 1
19　(4)　PT　(7)　25

▼松山市コミュニティセンター体育館

日立栃木27（12 15／11 7）18日本ビクター

○…立ち上がり両チーム共PTをはずすなど固さが見られ、一進一退のゲーム展開であったが、10分過ぎ日立が速攻、ロングシュートなどで着実に得点を重ねた。一方ビクターはなかなかリズムがつかめず単調な攻撃で日立にリードを奪われ前半を終了。

後半に入ってビクターも武藤を中心に必死に食い下がったが、最後までリズムがつかめず、日立の快勝に終った。

[日ビ]得 0 0 0 0 5 5 4 4 0 0 0 0
辺口根脇藤田藤條川本川田
渡小中門武長遠下枝根宮太
GK　FP（審・松原　伊藤）
[日立]生本打田水屋田岸沢原村苗
葛岡手前清土吉山井菅中尾
得 0 0 2 9 0 2 2 5 6 0 0 1
18　(4)　PT　(9)　27

【第3週第1日／6月22日】

▼塩山市民体育館

大崎電気25（13 12／10 9）19日立栃木

○…両者無傷の対戦であったが大崎のスピードとシュート力に日立は力が及ばなかった。大崎は李京姫の5連続得点（PT2を含む）でゲームの主導権を握り、前半20分を過ぎる頃、日立は同点にまで追いあげたが、リードを奪うことが出来ず再び大崎にリードを許し、後半に入って差が開く展開となった。

[日立]得 0 0 2 4 0 3 3 4 3 0 0 0
生本打田水屋田岸沢原村苗
葛岡手前清土吉山井菅中尾
GK　FP（審・槇田　三枝）
[大崎]野田實尾嶋井山渕谷村玉姫
梅藤時松宮石沖徳塩西李相李京
得 0 0 0 0 0 6 0 5 0 0 4 10
19　(1)　PT　(3)　25

▼大阪中央体育館

ジャスコ18（11 7／8 6）14大和銀行

○…前半、大和が5点を連取好調なスタートを切った。15分までは5—0と一方的な展開だったが、15分過ぎ、PTで初得点をあげたジャスコはようやくリズムをつかみ、前半終了前に三木が決めて7—6と逆転、1点リードして折り返した。

これで落ち着きを取り戻したジャスコは、後半に入っても寺沢の好リードで着実に追加点を重ねそのまま逃げ切った。

[大和]得 0 0 5 1 0 1 1 2 0 1 3 0
浜見成西添水田谷田木村瀬
高増秋上川若植天丸佐々上赤
GK　FP（審・北山　大原）
[ジャ]村口沢田野勢木本丸村藤部
木山寺石鷲伊三宮十野近服
得 0 0 3 2 1 2 7 1 0 1 1 0
14　(3)　PT　(3)　18

【第3週第2日／6月23日】

▼氷見市総合体育館

ジャスコ23（12 11／11 11）22日本ビクター

○…前半10分過ぎからジャスコが速攻をからませやや押し気味なゲーム展開となったが、大事な所でのPTを3本も止められ、ビクターにチャンスを与えた。結局、前半は11—11と同点で終了。後半は両チームシュートミスの少ない展開となり、常にビクターが先行する形での一進一退の攻防が続いた。残り5分でジャスコの伊勢のパスカットから初めてジャスコがリードを取り、GK山口の好守に支えられ逃げ切った。

[日ビ]得 0 0 2 0 7 10 1 2 0 0 0 0
辺口根脇藤田藤條松本川田
渡小中門武長遠下平根宮太
GK　FP（審・伊藤　古橋）
[ジャ]村口沢田野勢木本丸村藤重
木山寺石鷲伊三宮十野近徳
得 0 0 5 2 2 3 9 1 0 1 0 0
22　(5)　PT　(3)　23

【第4週第1日／6月29日】

▼下関市立体育館

日本ビクター24（10 14／13 5）18大和銀行

○…立ち上がりビクターは武藤が得点、続いて長田で加点。一方大和は川添のミドルで得点、その後はビクターのつぶしが早く大和

は得点出来ない。ビクターは速攻、ロングで着々と加点した。後半に入ってビクターのGK渡辺の巧守、武藤の活躍で押し切った。

得	〔大和〕		〔日ビ〕	得
0	高浜	GK	渡辺	0
0	増見		小口	0
2	秋成	FP	中根	2
7	上西		門脇	0
3	川添		武藤	8
4	若水		長田	7
0	植田		遠藤	0
0	天谷	〔審・中村 古富〕	下條	3
0	丸田		枝川	0
0	西野		根本	0
1	佐々木		宮川	4
1	上村		太田	0
18		PT	(3)	24

▼京都市立体育館

立石電機 22（12－8、10－9）17 日立栃木

○…立い上がりは立石の好ディフェンスとビスニッチの活躍で立石ペースかと思われたが、中盤、立石が手痛い退場などミスが日立ち、前半は10－9と互角の勝負となった。後半に入り中盤までは一進一退の攻撃を続けていた。残り15分から立石のディフェンスからの速攻が決まり出し、日立もGKの好守で踏んばったが、地方に勝る立石が突き放した。勝因は、立石の好ディフェンスであろう。

得	〔日立〕		〔立石〕	得
0	葛生	GK	荒木	0
0	岡本		竹下	0
0	手打	FP	是枝	0
8	前田		近藤	2
1	清水		亀園	0
1	土屋		岩村	3
0	吉田		池上	0
2	山岸	〔審・奥田 丸谷〕	江口	1
5	井沢		山口	0
0	山口		野嶋	8
0	菅原		ビスニッチ	7
0	中村		長谷川	0
17	(4)	PT	(5)	22

〔前期最終日／6月30日〕

▼呉市体育館

ジャスコ 30（13－12、17－8）20 日立栃木

○…前半、ジャスコは三木の速攻と野村のポストプレーで得点したが、日立栃木は、ジャスコの堅いディフェンスに攻撃が出来ず、ダブルスコアで終了した。後半もジャスコは速攻とポストプレーで着々と加点した。一方日立栃木は山岸のロングと吉田のサイド攻撃で対抗したが、及ばなかった。

得	〔日立〕		〔ジャ〕	得
0	葛生	GK	木村	0
0	岡本		山口	0
2	手打	FP	寺沢	4
5	前田		石田	3
1	清水		鶯野	0
2	土屋		伊勢	3
2	吉田		三木	7
4	山岸	〔審・東 中本〕	宮本	2
4	井沢		十丸	0
0	山口		野村	4
0	菅原		近藤	6
0	尾苗		服部	1
20	(1)	PT	(5)	30

▼西宮中央体育館

立石電機 23（10－11、13－6）17 大崎電気

○…大崎は立ち上がり時實のポストからのゴールで先取点を取ったが、エース李京姫に対し立石・江口のマンツーマンのディフェンスが功を奏し、また大崎のシュートミスにより加点出来なかった。一方立石は巨砲ビスニッチのロングシュートを軸に着々と加点、予想外の大差で前半を終了した。後半15分過ぎより李相玉の活躍により速攻を中心とした大崎本来のゲーム運びになり、22分には2点差にまで詰め寄り場内を湧かせたが、立石は冷静にサイド、ポストプレーにより大崎を突き放した。

得	〔大崎〕		〔立石〕	得
0	梅野	GK	荒木	0
0	大西		竹下	0
3	時實	FP	是枝	0
0	松尾		近藤	2
1	宮嶋		亀園	1
1	石井		岩村	1
0	沖山		池上	4
2	徳渕	〔審・島崎 井上〕	江口	4
0	深沢		山口	0
0	西村		野嶋	2
7	李相玉		ビスニッチ	9
3	李京姫		長谷川	0
17	(1)	PT	(3)	23

二部結果

〈男子〉

〔第1週第1日／6月8日〕

▼ジャスコ体育館

三景 30（13－4、17－11）15 大阪ガス

トヨタ自動車 23（10－12、13－7）19 日鉄建材

▼本田技研鈴鹿体育館

本田技研熊本 30（15－13、15－11）24 中村荷役

トヨタ車体 26（14－10、12－11）21 大阪イーグルス

〔第1週第2日／6月9日〕

▼ジャスコ体育館

トヨタ車体 23（13－7、10－10）17 日鉄建材

三景 20（11－6、9－13）19 トヨタ自動車

〔第2週第1日／6月15日〕

▼本田技研鈴鹿体育館

大阪イーグルス 31（15－15、16－13）28 本田技研熊本

中村荷役 28（16－15、12－10）25 大阪ガス

▼岡崎市体育館

中村荷役 26（15－10、11－14）24 トヨタ自動車

〔第3週第1日／6月22日〕

▼大阪中央体育館

トヨタ自動車 24（15－8、9－11）19 大阪ガス

大阪イーグルス 32（15－8、17－10）18 大阪ガス

〔第4週第1日／6月29日〕

▼大崎電気体育館

日鉄建材 19（8－11、11－6）17 大阪ガス

トヨタ自動車 31（17－13、14－14）27 大阪イーグルス

中村荷役 31（13－12、18－16）28 トヨタ車体

▼東京重機体育館

三景 33（16－9、17－11）20 本田技研熊本

〔前期最終日／6月30日〕

▼大崎電気体育館

大阪イーグルス 32（19－8、13－12）20 日鉄建材

三景 21（11－13、10－5）18 中村荷役

▼東京重機体育館

本田技研熊本 27（11－11、16－9）20 トヨタ車体

トヨタ自動車 24（15－8、9－11）19 大阪ガス

〈女子〉

〔第1週第1日／6月8日〕

▼ジャスコ体育館

ブラザー工業 30（16－4、14－5）9 ソニー国分

東京重機 25（19－11、6－10）21 シャトレーゼ

▼本田技研鈴鹿体育館

北国銀行 18（9－8、9－8）16 ムネカタ

〔第1週第2日／6月9日〕

▼ジャスコ体育館

ブラザー工業 38（14－8、24－8）16 シャトレーゼ

〔第3週第1日／6月22日〕

▼福井県営体育館

ブラザー工業 23（12－7、11－10）17 北国銀行

▼塩山市民体育館

シャトレーゼ 23（13－9、10－8）17 ソニー国分

〔第4週第1日／6月29日〕

▼大崎電気体育館

シャトレーゼ 20（13－9、7－11）20 ムネカタ

▼東京重機体育館

東京重機 34（12－7、22－7）14 ソニー国分

〔前期最終日／6月30日〕

▼大崎電気体育館

ブラザー工業 38（21－8、17－6）14 ムネカタ

▼東京重機体育館

東京重機 23（8－11、15－5）16 北国銀行

国際レフェリーシンポジウム報告書 I

光島磯雄
大塚文雄

5月13日～18日までポルトガルのカスカイス市に於て行なわれた国際レフェリーシンポジウムに光島磯雄氏と私、大塚文雄が参加した。今回のシンポジウムの主旨は、昨年サンジエゴ市（USA）のIHF総会で決定された一九八五～一九八八年の競技規則の改正に伴うものである。今回の改正は、一九八一年から実施されている競技規則から大きく変化はしていないが、レフェリーの罰則の適用が容易になるように、以前よりはるかに改良されたものになっている。

今回のシンポジウムの詳しい報告は後日にまわし、ここには、各講師がくり返し述べた事、グループ別討論での概略を記してみる。

講師

Erik Elias	PRC/IHF
Werner Vick	PRC/IHF
Jack Rodil	PRC/IHF
Janis Grinbergas	PRC/IHF
Theo Kielhorn	PRC/IHF
Vasile Sidea	PRC/IHF
Ivan Snoj	CCM/IHF
Heinz Seiller	CPD/IHF

参加国
44ヵ国、87名

罰則の段階的適用

レフェリーが罰則を適用しやすくするために、競技規則8－13を新たにつくった。

最近のゲームを見てみると、プレイヤーは、プレイに闘志を燃やすのはもとより好ましいことであるが、あまりにもラフプレイが多く、非道徳的なプレイが多く、フェアープレイの精神が死んでいるといえる。レフェリーはこれらを競技規則に従って、もっと勇気をもって笛を吹くようにしてほしい。罰則を段階的に適用する仕方は、競技規則第17条にはっきりと決めてある。競技規則の第8条と第17条の関連をしっかりと勉強しなければならない。3回の警告を与えるうちにゲームがきれいになるようにつとめなければならない。

相手に対する動作（8－4～8－11）の反則をみるとき、ボールを対象としているかどうか、そこをよく見ていれば審判はそれほどむつかしいものではない。特にラフプレイと関連のあるところは、8－10、8－11が大切である。ラフプレイに対しては、フリースロー、フリースローで処理せず、警告で始まり、失格まで持っていくことを考慮すべきである。フリースローは罰則のうちには入らない。

最後に、プレイヤーも競技規則をもっと熟知していなくてはいけない。各国の国際審判員は、このことをプレイヤーに教える義務がある。

国際審判員

1　国際審判員の登録

各国の国際審判員の登録は、ペアーで有能な順に名簿を提出しなければならない。

(1)カテゴリーA

50歳まで名簿にとどまることができるが、IHFの公式試合（オリンピック、世界選手権、ヨーロッパカップ等）を2年間吹かなければ自動的に名簿から抹消される。但し、アジアの場合は地域的な事情もあるので、とにかくIHFの支持する国際試合を多く吹く事が必要である。（地域的特殊事情を考慮するという意味の発言がエリアス氏よりあった。）

今後は韓国、中国、台湾等との交流が絶対に必要である。

(2)カテゴリーB

国際審判員候補者、すなわちカテゴリーBの登録は少なくても25歳～28歳までの間に行なわれなければならない。

そして国内の最高の試合を経験しなければならず、また、少なくとも1名のPRC／IHFのメンバーによるトレーニングコースを成功裡に終了することが必要である。また、語学力もIHFの公用語（独、英、仏）のうち1つは十分マスターしていなければならない。

カテゴリーBの年齢制限は、42歳までである。その間に2回受験し、合格しなければBへの登録は出来ない。

2　国際審判員の展望

カテゴリーBで述べたように、今後国際審判員の資格を取得することは、非常に困難になってきた。

国際審判員を目指す全国の若い皆さんは、まず語学力（会話力、読

解力）の実力アップをはかることが先決であり、最も重要である。
また、各国の国際審判員の平均年齢が高くなってきているので、IHFとしても若い審判員の養成が急務と考えている。

韓国からオフィシャルコースの要請があったが、現在韓国には7ペアー、日本は実に9ペアーもいるので、当分アジア地区でのオフィシャルコース開催はない。したがってAを受験する者は、常設コース（西独フライブルグの講習会等）に参加するしかない。但し、トレーニングコースはPRC／IHFとしては、いつでも行なう用意がある。

44ヵ国、87名が参加して開催された国際レフェリーシンポジウム

ルールに関して

ルールの解釈、適用については、出席の各国審判長によると、ヨーロッパ各国でも必ずしもIHFの見解通り実施はしていない。各国の国情に応じた解釈で実施している。（このあたりがヨーロッパ遠征から帰国したプレイヤーや役員から、いろいろ誤解の生ずるところか？）

次の質疑応答は、IHFの公式見解である。

aジャックルについて

プレイヤーがボールをキャッチしようとして、ボールのコントロールをしそこなうことである。

シュートカットについてもボールをコントロール（意識を働かせる）したかどうかで、空間の距離とか、高さとかは関係ない。

bキックボールについて

キャッチミスや相手から投げられたボールが下腿または足に触れても、これによって利益を得たとはいえない。下腿、または足で操作した時のみ反則となる。

c退場者が交替地域以外から退場した場合はどうするか。

交替地域以外から出た退場者は、1回目注意。くり返し行なった場合には失格とする。これは非スポーツ的行為である。

dゴールキーパーの顔面や頭部にボールをぶつけた時は。

ゴールキーパーが、ボールを止めるために動いた時には、これを罰することは出来ない。しかし静止した状態（ペナルティースローの時やサイドシュートの時など）の時にぶつけた時には、失格する。
（8－14、17－5）

eシュートの際、相手側ディフェンスと身体接触（押されたり、つかまえられたり……）があり、シュートを打ったがはずしてしまった。このようなケースの時は……。

シュートの際、押されようがつかまれようが、腕や身体をコントロールしたあと、シュートを打った時には、そのシュートが成功しなくても、それはペナルティースローの対象にはならない。

f明らかな得点のチャンスについて。

現在日本で行なわれている解釈が正しい。ロサンゼルス・オリンピックでも、速攻に出てノーマークでドリブルしているプレイヤーを相手側がうしろから阻止した場面が再三あった。あるときはフリースロー、あるときは警告、あるときは退場と判定のケースはいろいろあったが、いずれもペナルティースローにはなっていない。日本の多くのファンも疑問に思ったようだ。しかし、これはレフェリーがよくなかった。これは明らかな得点のチャンスなので、ペナルティースローの判定と、その時の状態にふさわしい罰則を適用すべきであった。

最後に今回の渡欧に際して、昨年亡くなられた、西独のミスターオリンピック、故ペライ氏（全日本チーム渡独の際、大変お世話になった）の墓前に日本協会で花をささげてきた。また、2月に来日された西独男子ナショナルチームの監督のショーベル氏、IHF事務総長マックス・リンケンバーガー氏を表敬訪問してきた。

各地の記録から・・

第24回岡山県高校総体

（6月1、2日／西大寺高校）

※県春季大会の上位、男子16チーム、女子10チームが参加。

〈男子〉

▼1回戦
総社 20－8 倉敷南
津山 16－14 青陵
東岡山工 16－15 落合
児島 14－10 倉敷商
天城 23－10 大安寺
玉野光南 16－10 西大寺
水島工 14－11 古城池
倉敷工 11－9 芳泉

▼2回戦
総社 29－13 津山
東岡山工 22－16 児島
天城 24－11 玉野光南
倉敷工 28－20 水島工

▼準決勝
総社 22－14 東岡山工
天城 26－10 倉敷工

▼決勝
天城 18（8－4、10－11）15 総社

※天城は2年ぶり18回目の優勝。

〈女子〉

▼1回戦
芳泉 14－7 大安寺
真備 18－7 一宮

▼2回戦
総社 23－4 芳泉
西大寺 13－5 操山
落合 12－8 倉敷商
児島 9－7 真備

▼準決勝
総社 17－9 西大寺
児島 16－13 落合

▼決勝
総社 17（8－7、9－4）11 児島

※総社は4年連続4回目の優勝。

長野県高校総体

（6月1、2日／更埴市民体育館、戸倉町総合体育館）

〈男子〉

▼1回戦
北佐久農 26－6 田川
臼田 12－11 蟻ヶ崎
小諸 31－6 東海大三
野沢北 17－12 美須々ヶ丘
坂城 27－8 野沢南
上田千曲 34－8 上水内北部

▼2回戦
屋代 34－21 北佐久農
小諸 32－5 臼田
坂城 19－9 野沢北
上田 29－9 上田千曲

▼準決勝
屋代 25－15 臼田
上田 26－19 坂城

▼3位決定戦
坂城 25－24 小諸

▼決勝
上田 21（13－10、8－10）20 屋代

※上田は2年連続20回目の優勝。

〈女子〉

▼1回戦
美須々ヶ丘 11－9 北佐久農

▼2回戦
蟻ヶ崎 22－16 小梅
塩尻 33－3 美須々ヶ丘
小諸商 24－11 臼田
屋代 18－4 田川
佐久 37－9 蟻ヶ崎

▼準決勝
塩尻 24－3 小諸商
佐久 9－5 屋代

▼3位決定戦
屋代 14－11 小諸商

▼決勝
佐久 16（9－9、7－6）15 塩尻

第25回香川県高校総体

（6月1、2日／高松工芸高）

〈男子〉

▼1回戦
高松工 17－14 寒川
高松一 18－14 高松南
高松西 21－10 高松北
坂出工 29－6 多度津工

▼2回戦
高松商 29－4 高松工
三本松 20－13 高松一
高松 20－19 高松西
丸亀 15－10 坂出工

▼決勝リーグ
高松商 17－10 三本松
丸亀 22－12 高松
高松商 24－5 高松
丸亀 18－13 三本松
高松商 29－8 丸亀
高松 18－17 三本松

［順位］①高松商②丸亀③高松④三本松

〈女子〉

▼1回戦
三本松 30－1 高松北
高松東 6－4 丸亀

▼2回戦
高松商 12－5 三本松
高松 18－13 高松中央
高松西 14－13 高松一
高松南 14－5 高松東

▼準決勝
高松商 25－7 高松
高松南 14－5 高松西

▼決勝
高松商 17（7－0、10－2）2 高松南

富山県高校総体

（6月1～3日／高岡商高）

〈男子〉

▼1回戦
伏木 16－15 富山工
小杉 37－5 高朋
富山中部 16－12 新湊
富山東 13－12 高岡商
水橋 17－14 雄山

▼2回戦
高岡向陵 35－6 伏木
富山 11－9 高岡南
呉羽 17－9 小杉
二上工 29－7 富山中部
氷見 33－8 富山東
富山商 21－18 八尾
大沢野工 22－16 富山南
高岡 30－12 水橋

▼3回戦
高岡向陵 54－5 富山
呉羽 13－8 二上工
氷見 21－17 富山商
高岡 35－27 大沢野工

▼準決勝
高岡向陵 24－5 呉羽
氷見 17－16 高岡

▼決勝
高岡向陵 26（11－8、15－11）19 氷見

※高岡向陵は3年ぶり3回目の優勝。

〈女子〉

▼1回戦
富山女 22－4 雄山
高岡 12－10 高岡女
高岡一 5－2 小杉
高岡向陵 16－5 新湊

▼2回戦
有磯 24－5 富山女
高岡 10－5 富山北部
富山女短大付 16－7 高岡一
高岡商 18－17 高岡向陵

▼準決勝
有磯 29－6 高岡
高岡商 22－17 富山女短大付

▼決勝
有磯 23（10－2、13－3）5 高岡商

※有磯は3年ぶり16回目の優勝。

第12回宮崎県高校総体

（6月1～3日／県総合運動公園、宮崎西高）

〈男子〉

▼1回戦
小林 17－12 宮崎西
延岡 24－18 都城商

▼2回戦
宮崎工 21－11 小林
都城西 26－6 日南工
宮崎一 22－8 日南
延岡東 43－6 西都商
泉ヶ丘 35－13 日向工
宮崎南 33－6 宮崎北
都城工 28－14 妻
小林工 21－13 延岡

▼3回戦
宮崎工 25－17 都城西
宮崎一 18－16 延岡東
宮崎南 20－17 泉ヶ丘

小林工 33−22 都城工
▼準決勝
宮崎工 17−16 宮崎一
小林工 20−16 宮崎南
▼決勝
小林工 24（13−9、11−6）15 宮崎工
※小林工は3年ぶり5回目の優勝。
〈女子〉
▼1回戦
延岡東 20−9 都城西
▼2回戦
本庄 25−5 延岡東
宮崎西 16−4 宮崎南
小林 10−5 宮崎女
延岡商 22−4 日南振徳
延岡 32−2 妻
泉ケ丘 32−6 西都商
都城商 18−15 宮崎南
小林商 40−1 日南
▼3回戦
本庄 17−3 宮崎西
延岡商 20−7 小林
延岡 16−6 泉ケ丘
小林商 31−9 都城商
▼準決勝
本庄 20−10 延岡商
小林商 16−6 延岡
▼決勝
小林商 16（9−5、3−7、2−1、2−0）13 本庄
※小林商は2年ぶり12回目の優勝。

第39回愛知県高校総体

◎東三河支部予選
（4月28、29日／国府高）
〈男子〉
▼1回戦
豊橋商 27−14 豊橋南
豊橋東 19−13 三谷水産
豊川工 23−14 蒲郡東
豊橋西 19−14 豊丘
時習館 20−18 桜丘
蒲郡 13−11 新城東
豊橋工 31−5 新城
▼2回戦
国府 26−11 豊橋商
豊川工 27−10 豊橋東
時習館 18−13 豊橋西
豊橋工 27−11 蒲郡
▼準決勝
豊川工 14−13 国府
豊橋工 17−11 時習館
▼3位決定戦
国府 29−13 時習館
▼決勝
豊川工 12−11 豊橋工
※豊川工、豊橋工、国府は県大会へ。
〈女子〉
▼1回戦
豊橋東 11−9 豊橋商
時習館 18−4 新城
蒲郡東 26−8 新城東
宝陵 12−11 豊橋南
▼2回戦
豊橋西 16−5 豊橋東
豊丘 23−5 時習館
蒲郡東 9−4 蒲郡
国府 16−11 宝陵
▼準決勝
豊橋西 11−8 豊丘
国府 17−10 蒲郡東
▼3位決定戦
蒲郡東 25−19 豊丘
▼決勝
豊橋西 16−14 国府
※豊橋西、国府、蒲郡東は県大会へ。

◎西三河支部予選
（4月28、29日、5月3日／岡崎北高）
〈男子〉
▼1回戦
三河 12−11 安城
一色 21−8 豊田工
岡崎工 24−15 三好
安城東 22−7 高浜
幸田 12−7 西尾
岡崎 18−3 知立
愛教大附 19−11 安城南
西尾東 12−8 碧南工
刈谷工 14−6 碧南
衣台 18−9 岡崎西
▼2回戦
岡崎城西 38−3 三河
岡崎工 29−9 一色
安城東 21−6 刈谷工
豊田南 15−10 幸田
岡崎 18−8 刈谷
西尾東 13−10 愛教大附
岡崎東 18−11 刈谷北
岡崎北 22−3 衣台
▼3回戦
岡崎城西 28−7 岡崎工
豊田南 17−13 安城東
岡崎 19−6 西尾東
岡崎東 11−9 岡崎北
▼5〜8位決定戦
岡崎工 19−12 安城東
岡崎北 13−7 西尾東
安城東 14−11 西尾東
岡崎北 19−15 岡崎工
▼準決勝
岡崎城西 35−12 豊田南
岡崎 24−13 岡崎東
▼3位決定戦
岡崎東 17−12 豊田南
▼決勝
岡崎城西 26−14 岡崎
※岡崎城西、岡崎、岡崎東、豊田南は県大会へ。
〈女子〉
▼1回戦
西尾 29−4 岡崎西
衣台 15−10 安城南
西尾東 13−9 豊田
安城 18−8 知立
岡崎東 20−8 豊田東
豊田南 12−3 岡崎商
一色 11−5 吉良
岡崎北 25−2 愛教大附
刈谷北 12−9 碧南
刈谷 10−8 安城東
▼2回戦
安城学園 17−4 西尾
西尾東 19−17 衣台
安城 25−4 高浜
岡崎東 7−6 岡崎
幸田 12−6 豊田南
一色 11−6 岡崎北
岩津 22−3 刈谷北
三好 23−7 刈谷
▼3回戦
安城学園 30−6 西尾東
安城 11−7 岡崎東
幸田 10−5 一色
三好 12−6 岩津
▼5〜8位決定戦
岡崎東 22−10 西尾東
一色 8−7 岩津
岩津 18−12 西尾東
岡崎東 8−4 一色
▼準決勝
安城学園 29−7 安城
三好 11−9 幸田
▼3位決定戦
幸田 21−16 安城
▼決勝
安城学園 17−12 三好
※安城学園、三好、幸田、安城は県大会へ。

県大会へ。

◎知多支部予選

（4月28、29日／半田高）

〈男子〉

▼1回戦
東海南 26—7 半田工
大府東 22—16 常滑北
武豊 20—7 東浦
知多東 18—8 半田農
横須賀 21—8 大府

▼2回戦
半田 19—9 東海南
武豊 22—7 大府東
知多 36—5 知多東
半田東 22—8 横須賀

▼準決勝
半田 21—7 武豊
半田東 15—9 知多

▼3位決定戦
知多 17—12 武豊

▼決勝
半田 11—10 半田東

※半田、半田東、知多は県大会へ。

〈女子〉

▼1回戦
半田商 23—0 知多東
東海南 22—1 知多
半田東 11—0 横須賀
半田 15—2 阿久比
武豊 17—3 内海
大府 9—6 半田農
東海商 16—6 桃陵
常滑北 22—0 大府東

▼2回戦
半田商 20—7 東海南
半田東 10—7 半田
武豊 30—1 大府
常滑北 13—9 東海商

▼準決勝
半田商 10—5 半田東
武豊 19—9 常滑北

▼3位決定戦
半田東 12—7 常滑北

▼決勝
武豊 12—9 半田商

※武豊、半田商、半田東は県大会へ。

◎名古屋南支部予選

（4月28、29日、5月3日／桜台高）

〈男子〉

▼1回戦
向陽 21—10 松蔭
星城 20—15 名商大付
富田 24—12 名古屋南
昭和 21—19 熱田
惟信 19—9 東郷
日進 31—12 名城大附
南陽 16—14 享栄
豊明 21—17 天白
名市工 16—9 大谷
中村 17—13 日進西

▼2回戦
中京 44—3 向陽
鳴海 26—12 星城
昭和 22—20 富田
名南工 40—12 惟信
緑 36—14 日進
瑞陵 25—4 南陽
豊明 24—14 名市工
桜台 39—13 中村

▼3回戦
中京 46—6 鳴海
名南工 29—16 昭和
緑 23—13 瑞陵
桜台 30—9 豊明

▼準決勝
中京 22—18 名南工
桜台 23—17 緑

▼3位決定戦
名南工 16—15 緑

▼決勝
中京 28—14 桜台

※中京、桜台、名南工、緑は県大会へ。

〈女子〉

▼1回戦
豊明 8—6 高蔵
東郷 17—10 緑
若宮商 12—7 熱田
東海女 23—5 日進
惟信 17—3 鳴海
瑞陵 10—4 中川商
中村 20—4 名古屋南

▼2回戦
名短付 35—1 豊明
向陽 20—8 東郷
熱田 5—5（2PTC0） 天白
昭和 12—3 東海女
南陽 12—9 惟信
瑞陵 21—3 星城
日進西 18—6 名女大
桜台 35—4 中村

▼3回戦
名短付 20—1 向陽
昭和 11—7 若宮商
瑞陵 13—11 南陽
桜台 22—4 日進西

▼準決勝
名短付 41—3 昭和
桜台 25—7 瑞陵

▼3位決定戦
昭和 11—8 瑞陵

▼決勝
名短付 21—13 桜台

※名短付、桜台、昭和、瑞陵は県大会へ。

◎名古屋北支部予選

（4月28、29日、5月3日／緑丘商）

〈男子〉

▼1回戦
旭野 19—16 東邦
東海 26—11 名古屋西
千種 43—2 瀬戸北
北 30—7 春日井商
愛知工 24—10 栄徳
山田 23—11 東工
菊里 28—18 長久手
春日井工 19—17 市工芸
瀬戸 28—5 名学院
瀬戸西 28—9 明和
春日井 25—6 春日丘

▼2回戦
愛知 36—7 旭野
千種 24—20 東海
北 26—19 愛知工
守山 20—13 山田
春日井東 21—15 菊里
高蔵寺 27—12 春日井工
瀬戸 14—12 瀬戸西
旭丘 25—13 春日井

▼3回戦
愛知 20—15 千種
守山 14—12 北
春日井東 28—16 高蔵寺
旭丘 19—19（3PTC1） 瀬戸

▼準決勝
愛知 30—12 守山
春日井東 29—16 旭丘

▼3位決定戦
旭丘 23—15 守山

▼決勝
愛知 25—19 春日井東

※愛知、春日井東、旭丘、守山は県大会へ。

〈女子〉

▼1回戦
名古屋商 14—3 千種
愛知商 25—3 春日井東
淑徳 26—10 北
瀬戸 20—5 春日井商
春日井 15—11 西陵商
長久手 19—4 明和

▼2回戦
市邨 25—1 名古屋商
愛知商 12—0 名古屋西
旭野 7—6 瀬戸西
淑徳 25—14 高蔵寺
中京女 32—4 瀬戸
山田 18—6 聖霊
菊里 13—10 春日井
緑丘商 24—2 長久手

▼3回戦
市邨 19—6 愛知商
淑徳 9—8 旭野
中京女 12—10 山田
菊里 12—9 緑丘商

▼準決勝
市邨 25—10 淑徳
中京女 21—11 菊里

▼3位決定戦
菊里 22—18 淑徳

▼決勝
市邨 24—10 中京女

※市邨、中京女、菊里、淑徳は県大会へ。

◎尾張支部予選

（4月28、29日、5月3日／一宮西高、一宮商高）

〈男子〉

▼1回戦
犬山 22—5 木曽川
丹羽 17—7 津島
西春 10—8 小牧南
小牧工 15—2 稲沢
江南 18—13 尾北
一宮南 27—4 尾関学園
尾西 19—10 岩倉
稲沢東 19—15 一宮興道
一宮北 14—5 五条
平和 14—12 佐織工
美和 13—11 一宮工

津島東 10―9 起工
▼2回戦
一宮 24―5 犬山
丹羽 13―10 西春
小牧工 12―10 江南
蟹江 14―10 一宮南
一宮西 12―8 尾西
一宮北 19―9 稲沢東
平和 12―10 美和
犬山南 24―7 津島東
▼3回戦
一宮 25―6 丹羽
蟹江 21―9 小牧工
一宮西 15―10 一宮北
犬山南 24―12 平和
▼準決勝
一宮 20―9 蟹江
犬山南 18―8 一宮西
▼3位決定戦
蟹江 16―12 一宮西
▼決勝
一宮 24―15 犬山南
※一宮、犬山南、蟹江、一宮西は県大会へ。
〈女子〉
▼1回戦
小牧南 9―7 古知野
犬山 19―3 津島東
一宮西 10―2 稲沢東
一宮北 26―4 一宮南
一宮興道 11―8 一宮女
津島 7―6 平和
江南 18―4 津島女
一宮 30―2 美和
▼2回戦
尾西 24―5 小牧南
岩倉 13―9 犬山
尾北 15―6 一宮西
蟹江 15―7 一宮北
西春 13―7 一宮興道
一宮商 11―6 津島
犬山南 26―2 江南
佐屋 13―6 一宮
▼3回戦
尾西 16―6 岩倉
尾北 9―7 蟹江
西春 13―7 一宮商
佐屋 14―10 犬山南
▼準決勝
尾西 8―6 尾北
佐屋 9―8 西春
▼3位決定戦
西春 7―6 尾北
▼決勝
佐屋 9―8 尾西
※佐屋、尾西、西春、尾北は県大会へ。
◎県大会（5月26日、6月2、9日／岡崎北高）
〈男子〉
▼1回戦
守山 17―9 一宮西
犬山南 26―13 知多
緑 23―11 豊田南
蟹江 18―16 旭丘
岡崎 34―19 国府
名南工 19―12 岡崎東
▼2回戦
中京 34―9 守山
岡崎城西 30―19 犬山南
豊川工 20―17 半田東
春日井東 20―14 緑
桜台 25―19 蟹江
半田 14―10 豊橋工
一宮 18―15 岡崎工
愛知 25―5 名南工
▼3回戦
中京 25―19 岡崎城西
春日井東 33―14 豊川工
桜台 18―14 半田
愛知 29―7 一宮
▼準決勝
中京 24―12 春日井東
愛知 29―18 桜台
▼決勝
中京 22（11―9、11―10）19 愛知
※中京は2年連続9回目の優勝。
〈女子〉
▼1回戦
安城 20―17 淑徳
半田商 34―16 蒲郡東
西春 24―12 昭和
半田東 17―6 尾北
桜台 23―17 尾西
瑞陵 13―12 幸田
▼2回戦
名短付 37―6 安城
佐屋 14―13 半田商
三好 21―12 武豊
菊里 16―8 西春
中京女 26―11 半田東
安城学園 37―8 国府
桜台 27―3 豊橋西
市邨 23―4 瑞陵
▼3回戦
名短付 34―9 佐屋
三好 20―13 菊里
中京女 18―15 安城学園
市邨 19―11 桜台
▼準決勝
名短付 28―6 三好
市邨 12―9 中京女
▼決勝
名短付 26（14―7、12―10）17 市邨
※名短付は2年ぶり4回目の優勝。

愛媛県高校総体

（6月2、3日／松山北高）
〈男子〉
▼1回戦

今治工 18―7 新居浜西
▼2回戦
今治東 31―4 松北中島
松山南 23―10 宇和島南
新田 13―11 今治西
松山東 34―11 吉田
松山北 35―11 松山商
今治南 20―9 新居浜商
新居浜工 32―17 伊予
松山西 35―8 今治工
▼3回戦
新田 23―17 松山南
松山北 19―14 松山東
松山西 26―11 今治東
新居浜工 45―7 今治南
▼準決勝
松山西 22―16 新田
新居浜工 23―21 松山北
▼決勝
新居浜工 15（6―6、9―8）14 松山西
※新居浜工は2年連続29回目の優勝。
〈女子〉
▼1回戦
松山商 19―7 伊予農
中山 11―4 西条
▼2回戦
松北中島 14―12 新居浜東
今治北 17―6 今治西
東温 10―9 新居浜商
今治南 6―3 松山西
伊予 12―10 弓削
三崎 16―7 土居
松山北 26―5 中山
大島 18―11 松山商
▼3回戦
今治北 20―10 東温
今治南 32―2 伊予
大島 21―13 松北中島
松山北 16―3 三崎

▼準決勝
今治北 8－4 大島
今治南 20－13 松山北
▼決勝
今治南 18（10－7, 8－8）15 今治北
※今治南は2年ぶり2回目の優勝。

全国クラブ選手権石川県予選

（6月2、9日／金沢中央体育館、金沢美大体育館）
▼1回戦
星稜ク 20－10 七尾ク
▼2回戦
小松クA 24－17 星稜ク
小松ウェンズディ 38－9 松陵ク
小松クB 33－7 羽咋ク
あすなろク 23－19 県工ク
▼準決勝
小松クA 26－19 小松ウェンズディ
小松クB 24－19 あすなろク
▼決勝
小松クA 20（10－9, 10－10）19 小松クB
※小松クラブAは3年連続4回目の優勝。

沖縄県高校総体

（6月1～4日／奥武山体育館、小禄高体育館、首里高体育館）
〈男子〉
▼1回戦
糸満 21－11 知念
沖尚 25－13 与勝
真知志 31－19 西原
コザ 35－15 普天間
沖縄工 36－20 八重山
▼2回戦
糸満 22－21 浦添
宮古水産 49－10 具志川
那覇工 25－14 南風原
那覇 不戦勝 八重山商工
美里 40－4 名護
宮古 34－34 大平（5 PTC 4）
宮古工 43－9 八重山農
豊見城 40－11 沖尚
読谷 32－12 真和志
宜野湾 27－20 中部工
浦添工 24－16 昭薬附
コザ 39－15 首里東
宜野座 22－21 伊良部
小禄 36－20 宮古農
首里 16－14 前原
興南 34－16 沖縄工
▼3回戦
糸満 23－9 宮古水産
那覇 37－11 那覇工
美里 35－15 宮古
豊見城 25－23 宮古工
読谷 36－12 宜野湾
コザ 37－14 浦添工
小禄 40－4 宜野座
興南 21－12 首里
▼4回戦
糸満 23－14 那覇
美里 28－18 豊見城
コザ 19－18 読谷
興南 31－15 小禄
▼準決勝
豊見城 17－10 糸満
興南 22－12 コザ
▼決勝
興南 24（11－12, 13－6）18 豊見城
〈女子〉
▼1回戦
糸満 23－4 八重山農
美里 不戦勝 八重山商工
興南 10－6 知念
大平 20－7 普天間
真知志 14－6 八重山
宮古農 22－21 豊見城
首里東 13－10 具志川
那覇 28－16 浦添工
前原 23－9 宜野座
浦添 20－12 与勝
▼2回戦
小禄 27－2 糸満
美里 44－2 興南
名護 25－8 大平
コザ 30－15 真知志
首里 31－8 宮古農
那覇 16－10 首里東
前原 23－6 伊良部
読谷 23－12 浦添
▼3回戦
小禄 16－10 美里
コザ 40－15 名護
首里 26－13 那覇
読谷 21－11 前原
▼準決勝
コザ 16－13 小禄
読谷 16－10 首里
▼決勝
コザ 20（13－6, 7－9）15 読谷

鳥取県高校総体

（6月2、3日／境港市民体育館、境港第2市民体育館）
〈男子〉
▼1回戦
米子北 17－6 米子西
米子東 32－1 倉吉東
境港工 29－11 倉吉工
▼準決勝
境 35－9 米子北
境港工 22－12 米子東
▼3位決定戦
米子東 22－16 米子北
▼決勝
境 25（17－4, 8－7）11 境港工
※境は3年連続5回目の優勝。
〈女子〉
▼1回戦
米子北 14－7 米子東
米子南商 27－6 倉吉産
米子西 19－6 倉吉西
▼準決勝
境 35－8 米子北
米子西 13－12 米子南商
▼3位決定戦
米子南商 18－10 米子北
▼決勝
境 28（15－1, 13－4）5 米子西
※境は3年連続5回目の優勝。

第38回群馬県高校選手権

〈男子〉
▼1回戦
玉村 24－21 前橋育英
▼2回戦
下仁田 31－10 桐生
前橋商 22－16 前橋
吉井 34－15 玉村
富岡 26－14 桐生工
▼準決勝
吉井 24－17 下仁田
富岡 34－19 前橋商
▼決勝
富岡 28（12－12, 16－8）20 吉井
※富岡は5年連続21回目の優勝。
〈女子〉
▼1回戦
下仁田 20－5 高崎女
高崎市女 21－5 前橋商
▼2回戦
佐藤学園 22－7 桐生西
桐生女 16－7 前橋市女

- 吉井 10－6 下仁田
- 群女短大付 21－8 高崎市女

▼準決勝
- 吉井 29－7 佐藤学園
- 群女短大付 26－4 桐生女

▼決勝
- 吉井 17（9－9、8－6）15 群女短大付

※吉井は4年連続6回目の優勝。

第38回高知県高校体育大会

〈男子〉

▼1回戦
- 吾北 24－19 須崎工
- 須崎 20－5 中村
- 幡多農 20－7 岡豊

▼2回戦
- 土佐 20－12 吾北
- 須崎 32－11 中芸
- 追手前 31－11 高知西
- 高知東 30－12 幡多農

▼準決勝
- 土佐 29－19 須崎
- 追手前 23－22 高知東

▼決勝
- 土佐 29（13－3、16－6）9 追手前

〈女子〉

▼リーグ戦
- 佐川 没－収 高知商
- 高知東 16－2 中芸
- 高知西 26－5 佐川
- 高知東 没－収 高知商
- 高知西 28－7 中芸
- 高知東 21－4 佐川
- 佐川 17－6 中芸
- 高知西 17－15 高知東

［順位］①高知西②高知東③佐川④中芸

※高知商の没収試合は出場選手に未登録者が含まれていたため。

熊本県高校総体

（6月7日～9日）

〈男子〉

▼1回戦
- 八代 26－13 大津
- 熊本二 28－12 熊本商大付
- 小国 26－14 天草農
- 水俣 22－10 御船
- 熊本 18－16 河浦
- 八代工 19－11 玉名

▼2回戦
- 九州学院 19－11 八代
- 牛深 11－3 松橋
- 松島商 15－14 鎮西
- 宇土 21－14 熊本二
- 熊本市商 22－9 小国
- 真和 21－8 水俣工
- 天草工 16－12 熊本西
- 済々黌 19－9 八代農
- 熊本一工 17－15 天矢野
- 人吉 19－13 熊本北
- 東海二 21－11 小川工
- 氷川 24－11 水俣
- マリスト 23－11 熊本
- 熊本商 13－11 倉岳
- 熊本工 20－12 水産
- 天草 29－11 八代工

▼3回戦
- 牛深 13－11 九州学院
- 松島商 15－12 宇土
- 熊本市商 22－9 真和
- 済々黌 19－13 天草工
- 氷川 28－16 東海二
- マリスト 32－9 熊本商
- 天草 33－17 熊本工

▼4回戦
- 松島商 21－13 牛深
- 熊本市商 25－17 済々黌
- 氷川 22－16 人吉
- 天草 16－15 マリスト

▼準決勝
- 熊本市商 22－19 松島商
- 天草 27－22 氷川

▼決勝
- 天草 16（9－8、7－5）13 熊本市商

※天草は初優勝。

〈女子〉

▼1回戦
- 八代 30－18 鹿本商工
- 氷川 18－7 水産
- 信愛 14－11 天草農
- 小国 16－8 球磨商
- 九州女 14－11 矢部

▼2回戦
- 熊本女商 29－8 八代
- 水俣 10－9 牛深
- 天草 12－10 玉名
- 宇土 20－10 氷川
- 松島商 18－11 信愛
- 人吉 16－13 熊本商
- 松橋 17－6 小国
- 熊本市立 28－7 九州女

▼3回戦
- 熊本女商 28－6 水俣
- 宇土 22－5 天草
- 松島商 27－6 人吉
- 熊本市立 23－10 松橋

▼準決勝
- 熊本女商 26－13 宇土
- 熊本市立 17－13 松島商

決勝
- 熊本女商 24（12－7、12－6）13 熊本市立

※熊本女商は2年ぶり9回目の優勝。

全国高校総体京都府予選

（6月1～16日／田辺、城陽、洛水、乙訓、向陽高）

〈男子〉

▼1回戦
- 日吉丘 32－4 伏見工

▼2回戦
- 東山 35－5 平安
- 大谷 33－8 西乙訓
- 城南 34－7 塔南
- 堀川 15－14 久御山
- 田辺 20－18 洛星
- 洛北 25－11 北稜
- 洛陽工 31－18 洛東
- 西宇治 35－17 城陽
- 北嵯峨 38－10 東稜
- 向陽 32－18 洛西
- 鴨沂 15－9 南八幡
- 桃山 23－17 日吉丘
- 京都商 30－11 同志社
- 嵯峨野 15－8 京都西
- 洛水 17－15 乙訓
- 東宇治 24－9 桂

▼3回戦
- 東山 35－12 大谷
- 堀川 23－13 城南
- 京都商 21－13 嵯峨野
- 北嵯峨 27－18 洛北
- 西宇治 26－24 洛陽工
- 東宇治 32－3 田辺
- 向陽 23－18 洛水
- 桃山 30－16 鴨沂

▼4回戦
- 東山 33－16 堀川
- 北嵯峨 28－20 西宇治
- 向陽 26－20 桃山
- 東宇治 28－14 京都商

▼準決勝
- 東山 30－9 北嵯峨
- 東宇治 23－16 向陽

▼3位決定戦
- 北嵯峨 23－21 向陽

▼決勝
- 東山 23（14－9、9－7）16 東宇治

※東山は3年連続7回目の優勝。

〈女子〉

▼1回戦
鴨沂17－1南八幡
洛北22－4北稜
西宇治16－11西京商
乙訓27－4西山
城南12－11精華
嵯峨野17－8洛東
東稜24－10田辺
洛水17－13塔南
城陽12－11北嵯峨
洛西12－7明徳商
桃山13－9桂

▼2回戦
京都女39－6鴨沂
西宇治21－12洛北
乙訓13－7久御山
光華28－6城南
向陽27－4嵯峨野
東稜18－17洛水
洛西19－15城陽
東宇治25－8桃山

▼3回戦
京都女30－9西宇治
光華29－12乙訓
向陽17－13東稜
東宇治31－9洛西

▼準決勝
京都女22－17光華
東宇治16－11向陽

▼3位決定戦
向陽19－16光華

▼決勝
京都女20（11－4、9－9）13東宇治

※京都女は15年ぶり13回目の優勝。

全国高校総体埼玉県予選

（6月9、15～17、22、23／川口女高、川口工高）

〈男子〉

▼1回戦
草加27－7農大三
川口青陵17－5浦和南
朝霞16－14城西川越
桶川13－12三郷北
北本25－12緑ケ丘
羽生一27－14志木
庄和9－9（3PTC2）大宮南
浦和学院35－11春日部東
越谷南24－20城北埼玉
浦和市立33－13和光
上尾沼南32－8久喜工
秩父農工21－8桶川西
春日部共栄37－11浦和工
富士見19－19（2PTC0）宮代
浦和西26－11伊奈学園
川口工60－4鴻巣
草加東34－12岩槻
上尾東28－7川口
朝霞西27－8越谷西
西武台20－9県立坂戸
埼玉一45－7蓮田
川口東43－13狭山
春日部工43－5聖望
川口北56－4八潮南
筑波大坂戸36－12大井
大宮12－0秩父
戸田28－12熊谷
所沢北20－17上尾南
科学技術35－7昌平
小松原22－17大宮北
埼玉栄31－11春日部

▼2回戦
浦和実39－12草加
川口青陵27－15朝霞
北本20－18桶川
羽生一22－14庄和
浦和学院28－13越谷南
上尾沼南12－9浦和市立
春日部共栄24－10秩父農工
浦和西30－12富士見
川口工24－17草加東
上尾東29－25朝霞西
埼玉一19－18西武台
春日部工19－18川口東
川口北30－11筑波大坂戸
戸田19－17大宮
科学技術28－17所沢北
埼玉栄20－18小松原

▼3回戦
浦和実28－15川口青陵
羽生一25－12北本
浦和学院37－7上尾沼南
浦和西25－8春日部共栄
川口工33－16上尾東
春日部工18－14埼玉一
川口北33－11戸田
埼玉栄30－10科学技術

▼ブロック代表決定戦
浦和実32－6羽生一
浦和西23－11浦和学院
川口工27－21春日部工
埼玉栄14－14（2PTC1）川口北

▼決勝リーグ
浦和実24－13埼玉栄
浦和西22－22川口工
浦和西25－14埼玉栄
浦和実20－16川口工
川口工23－17埼玉栄
浦和実29－15浦和西

［順位］①浦和実②川口工③浦和西④埼玉栄

※浦和実は2年連続3度目の優勝。

〈女子〉

▼1回戦
庄和29－4八潮南
深谷一12－11大宮北
和光16－3草加南
秋草学園13－10小松原
伊奈学園23－0狭山
川口東18－5上尾沼南
浦和西28－3幸手商
大宮武蔵野15－5大宮南
埼玉一20－11大宮開成
志木12－9浦和学院
草加東18－7上尾南

▼2回戦
浦和実16－5庄和
深谷一28－6春日部東
浦和商22－6朝霞
川口北18－5和光
川口青陵30－4秋草学園
伊奈学園14－8筑波大坂戸
北本14－12秩父
川口東11－8八潮
川口女15－11浦和西
春日部共栄14－3大宮武蔵野
越谷南25－7所沢北
羽生一13－8埼玉一
浦和南28－11志木
浦和市立21－11熊谷商
三郷北18－7熊谷女
行田女12－7草加東

▼3回戦
浦和実26－6深谷一
川口女23－5浦和商
川口青陵19－6伊奈学園
川口東29－3北本
川口女22－7春日部共栄
羽生一17－6越谷南
浦和南18－9浦和市立
三郷北13－13（2PTC0）行田女

▼ブロック代表決定戦
浦和実14－9川口北
川口青陵12－5川口東
川口女17－6羽生一
浦和南18－12三郷北

▼決勝リーグ

浦和実 20－11 浦和南
川口青陵 17－16 川口女
浦和実 14－14 川口女
川口青陵 26－14 浦和実
川口女 21－17 浦和南
浦和実 16－14 川口青陵

［順位］①浦和実②川口青陵③川口女④浦和南
※浦和実は初優勝。

全国高校総体奈良県予選

（6月8、15、16日／生駒市総合体育館、生駒市民体育館）

〈男子〉

▼1回戦
天理 23－11 十津川
上牧 14－10 富雄

▼2回戦
生駒 32－16 天理
広陵 24－10 片桐
一条 22－10 郡山
添上 30－12 斑鳩
東大寺 30－10 上牧
橿原 15－14 奈良工
畝傍 20－7 桜井商
正強 20－15 奈良

▼3回戦
生駒 28－11 広陵
添上 34－17 一条
東大寺 21－20 橿原
正強 36－6 畝傍

▼準決勝
添上 19－15 生駒
正強 16－14 東大寺

▼決勝
添上 20（7－8、10－9、3－0、0－2）19 正強

〈女子〉

▼1回戦
十津川 8－7 橿原
一条 15－7 片桐
短大付 24－5 富雄

▼2回戦
添上 28－4 十津川
生駒 21－9 一条
郡山 11－10 短大付
白藤 14－12 上牧

▼準決勝
添上 23－7 生駒
郡山 14－8 白藤

▼決勝
添上 16（8－1、8－2）3 郡山

関東高校選手権

（6月1〜3日／桐生西高、桐生市民体育館）

〈男子〉

▼1回戦
前橋商（群馬）23－11 足利工（栃木）
吉井（群馬）24－18 若松（千葉）
日体荏原（東京）17－16 市川（千葉）
川口工（埼玉）26－19 太田一（茨城）
前橋（群馬）22－16 笠間（茨城）
浦和学院（埼玉）27－14 慶応（神奈川）
拓大一（東京）25－19 生田（神奈川）
富岡（群馬）26－16 日大明誠（山梨）
国学院栃木（栃木）19－12 塩山商（山梨）
法政二（神奈川）24－14 二松学舎沼南（千葉）
小山南（栃木）20－15 中大附（東京）

▼2回戦
横浜商工（神奈川）26－11 前橋商
日川（山梨）35－13 吉井
川口工 20－19 日体荏原
浦和実（埼玉）37－14 前橋
浦和学院 23－16 明星（東京）
富岡 33－10 拓大一
法政二 18－11 国学院栃木
小山南 32－32 竹園（茨城）（PTC 2－1）

▼3回戦
横浜商工 17－10 日川
浦和実 21－13 川口工
富岡 17－15 浦和学院
法政二 31－12 小山南

▼準決勝
横浜商工 21－10 浦和実
富岡 28－20 法政二

▼決勝
横浜商工 25（13－5、12－11）16 富岡

〈女子〉

▼1回戦
川崎北（神奈川）12－12 栃木女（栃木）（3PTC2）
昭和学院（千葉）15－10 川口青陵（埼玉）
高津（神奈川）14－13 群馬短大府（群馬）
栃木商（栃木）20－8 鉾田二（茨城）
桐朋女（東京）20－18 川口市女（埼玉）
横須賀大津（神奈川）27－12 高崎市女（群馬）
成美学園女（神奈川）24－7 下仁田（群馬）
国学院栃木（栃木）28－3 塩山商（山梨）
日川（山梨）19－11 吉井（群馬）
藤村女（東京）18－4 和洋女大附国府台女（千葉）
竜ケ崎一（茨城）13－12 江東商（東京）

▼2回戦
川崎北 9－8 佼成学園女（東京）
昭和学院 16－9 山梨（山梨）
栃木商 22－13 高津
水海道二（茨城）17－16 桐朋女
浦和実（埼玉）22－19 横須賀大津
国学院栃木 23－19 成美学園女
藤村女 16－9 日川
東邦大附東邦（千葉）21－10 竜ケ崎一

▼3回戦
昭和学院 14－8 川崎北
水海道二 15－13 栃木商
国学院栃木 18－14 浦和実
東邦大附東邦 12－6 藤村女

▼準決勝
水海道二 18－12 昭和学院
国学院栃木 18－13 東邦大附東邦

▼決勝
水海道二 17（9－7、8－7）14 国学院栃木

第37回岩手県高校総体

（6月8〜10日／花巻北高、花巻農高）

〈男子〉

▼1回戦

釜石南 24－10 一戸
▼3回戦
大迫 20－16 盛岡商
花巻北 23－18 花巻農
盛岡四 22－14 盛岡一
宮古 19－18 釜石南
▼準決勝
花巻北 24－23 大迫
盛岡四 29－14 宮古
▼決勝
花巻北 19（11－5, 8－9）14 盛岡四

〈女子〉
▼1回戦
盛岡三 30－4 一戸
黒沢尻南 10－9 宮古
白百合学園 13－6 釜石商
▼2回戦
花巻北 17－5 盛岡三
水沢 22－6 向中野学園
久慈山形 9－8 平舘
花巻南 21－12 盛岡南
釜石南 19－5 黒沢尻南
岩手女 17－4 岩泉田野畑
花巻農 13－5 大原商
盛岡二 28－3 白百合学園
▼3回戦
花巻北 21－3 水沢
花巻南 20－4 久慈山形
釜石南 19－1 岩手女
盛岡二 31－4 花巻農
▼準決勝
花巻北 21－15 花巻南
盛岡二 15－11 釜石南
▼決勝
盛岡二 19（9－8, 10－10）18 花巻北

第21回北信越高校選手権

（6月14～16日／更埴市民体育館、戸倉町総合体育館）

〈女子〉
▼1回戦
北陸（福井）23－19 小諸（長野）
氷見（富山）31－14 新潟江南（新潟）
坂城（長野）27－22 長岡大手（新潟）
小松明峰（石川）24－18 屋代（長野）
▼2回戦
小松工（石川）37－11 北陸
氷見 32－16 上田（長野）
金津（福井）24－15 坂城
高岡向陵（富山）24－18 小松明峰
▼準決勝
小松工 28－20 氷見
金津 16－15 高岡向陵
▼決勝
小松工 28（11－8, 17－7）15 金津
※小松工は初優勝。

〈女子〉
▼1回戦
高岡商（富山）22－13 小諸商（長野）
福井商（福井）16－9 長岡大手（新潟）
小松市女（石川）31－9 塩尻（長野）
新潟江南（新潟）22－17 屋代（長野）
▼2回戦
小松商（石川）30－7 高岡商
佐久（長野）14－4 福井商
小松市女 28－4 仁愛女（福井）
有磯（富山）33－6 新潟江南
▼準決勝
小松商 17－8 佐久
小松市女 19－5 有磯
▼決勝
小松市女 13（6－2, 7－8）10 小松商
※小松市女は8年連続14回目の優勝。

第32回東海高校総体

（6月22、23日／四日市工高、四日市南高）

〈男子〉
▼1回戦
中京（愛知）36－3 桑名（三重）
富士（静岡）19－13 市立岐阜商（岐阜）
四日市工（三重）18－14 静岡東（静岡）
愛知（愛知）25－14 県立岐阜商（岐阜）
▼準決勝
中京 21－15 富士
愛知 23－19 四日市工
▼3位決定戦
四日市工 22－14 富士
▼決勝
中京 23（13－10, 10－7）17 愛知
※中京は2年連続9回目の優勝。

〈女子〉
▼1回戦
名短附（愛知）29－13 清水西（静岡）
暁（三重）38－7 県立岐阜商（岐阜）
静岡城北（静岡）20－10 四日市商（三重）
市邨学園（愛知）23－11 本巣（岐阜）
▼準決勝
名短附 25－9 暁
市邨学園 17－2 静岡城北
▼3位決定戦
静岡城北 14－6 暁
▼決勝
名短附 13（7－5, 6－6）11 市邨学園
※名短附は2年ぶり3回目の優勝。

全国高校総体茨城県予選

（6月15、16日／笠間高）

〈男子〉
▼1回戦
竹園 31－8 勝田工
土浦一 31－9 緑岡
藤代紫水 25－18 水戸工
八郷 21－11 鹿島灘
笠間 25－19 竜ケ崎一
勝田 18－14 土浦三
岩井 22－11 水海道一
麻生 17－14 太田一
▼2回戦
竹園 28－11 土浦一
藤代紫水 30－19 八郷
笠間 36－19 勝田
麻生 17－16 岩井
▼準決勝
竹園 26－21 藤代紫水
笠間 28－15 麻生
▼決勝
竹園 24（13－6, 11－9）15 笠間

〈女子〉
▼1回戦
水海道二 34－4 藤代紫水
土浦二 17－16 潮来
下妻二 19－17 水戸二
竜ケ崎二 12－6 太田二
鉾田二 18－17 石岡二
麻生 27－5 下館二
結城二 29－10 八郷
竜ケ崎一 13－9 高萩
▼2回戦
水海道二 28－6 土浦二
竜ケ崎二 22－12 下妻二
麻生 17－11 鉾田二
結城二 21－8 竜ケ崎一
▼準決勝
水海道二 28－8 竜ケ崎二
結城二 15－13 麻生
▼決勝
水海道二 19（9－4, 10－5）9 結城二

国体茨城県予選

（6月22、23日／笠間市民体育館）

〈成年男子〉
▼1回戦
笠間ク 42－15 自衛隊勝田
日本原研 28－23 茎崎ク
筑波学園ク 55－17 土浦三高OB
▼準決勝
茨苑ク 37－19 笠間ク
筑波学園ク 44－6 日本原研
▼決勝
筑波学園ク 28－27 茨苑ク

第38回千葉県高校総体

（5月11～13日／木更津高、上総高、市原高）

〈男子〉

▼1回戦

流山中央	20－9	船橋法典
木更津	15－13	柏陵
白井	20－8	泉
八千代	25－4	船橋東
東葛飾	24－5	国府台
佐原	16－5	市原
東京学館	17－14	千葉南
松戸六実	18－10	市立柏
県立柏	28－11	渋谷学園幕張
流山東	14－13	京葉
若松	24－8	船橋西
市立松戸	25－6	上総
拓大紅陵	12－11	四街道

▼2回戦

市川	39－8	流山中央
木更津	22－7	千葉大宮
松戸秋山	26－11	白井
東邦大付東邦	15－11	八千代
我孫子	21－20	東葛飾
柏南	17－9	小金
佐原	25－9	房総学園
幕張北	24－19	東京学館
二松学舎沼南	20－11	松戸六実
県立柏	25－3	士気
国分	17－8	千葉明徳
芝工大付柏	22－9	流山東
若松	18－4	生浜
東京学館浦安	27－21	鶴舞商
市立松戸	20－12	鎌ケ谷
船橋旭	17－14	拓大紅陵

▼3回戦

市川	23－12	木更津
東邦大付東邦	29－18	松戸秋山
柏南	26－23	我孫子
佐原	17－12	幕張北
二松学舎沼南	27－14	県立柏
芝工大柏	20－14	国分
若松	20－13	東京学館浦安
船橋旭	29－12	市立松戸

▼4回戦

市川	20－12	東邦大付東邦
佐原	18－17	柏南
二松学舎沼南	17－14	芝工大柏
若松	17－11	船橋旭

▼準決勝

市川	22－11	佐原
二松学舎沼南	25－8	若松

▼3位決定戦

若松	16－11	佐原

▼決勝

市川 20（9－9、11－5）14 二松学舎沼南

※市川は4年連続6回目の優勝。

〈女子〉

▼1回戦

千葉大宮	16－9	聖徳短大付
松戸六実	14－7	四街道
佐原女	12－0	流山東
生浜	23－6	渋谷学園幕張
白井	17－7	東葛飾

▼2回戦

昭和学院	37－5	千葉大宮
松戸六実	20－6	若葉看護
市立松戸	31－6	千葉明徳
和洋女大付国府台	16－9	佐原女
柏南	29－4	生浜
流山中央	22－11	御宿家政
泉	16－12	佐原
東邦大付東邦	30－5	白井

▼3回戦

昭和学院	35－2	松戸六実
和洋女大付国府台	38－8	市立松戸
柏南	23－12	流山中央
東邦大付東邦	19－5	泉

▼準決勝

昭和学院	16－14	和洋女大付国府台
東邦大付東邦	21－7	柏南

▼3位決定戦

和洋女大付国府台	25－6	柏南

▼決勝

東邦大付東邦 11（4－6、7－4）10 昭和学院

※東邦大付東邦は初優勝。

関東学生新人戦

（6月10、11、15、18／駒沢）

〈男子〉

▼1回戦

都留大	18－9	立教大

▼2回戦

千葉大	23－12	神奈川大
東理大	15－13	東農大
日大	44－14	上智大
法大	40－10	一橋大
創価大	26－14	東工大
順天大	25－20	国武大
国士大	40－9	東経大
日体大	28－10	東大
武工大	12－0	亜大
帝京大	20－18	横市大
早大	12－0	青学大
筑波大	19－18	明治大
都立大	18－15	成蹊大
東学大	23－19	駒沢大
慶大	19－18	東海大
中大	35－16	都留大

▼第3回戦

日大	43－8	東理大
法大	36－7	創価大
国士大	24－23	順天大
日体大	46－13	武工大
早大	39－8	帝京大
筑波大	39－10	都立大
慶大	24－15	東学大
中大	25－12	千葉大

▼4回戦

法大	21－18	国士大
日体大	12－0	早大
筑波大	12－0	慶大
日大	20－19	中大

▼準決勝

筑波大	31－26	日体大
法大	31－30	日大

▼3位決定戦

日大	26－26	日体大

▼決勝

法大 25（14－12、11－7）19 筑波大

〈女子〉

▼リーグ戦

筑波大	33－1	都留大
筑波大	43－2	千葉大
東女体大	28－6	都留大
東学大	15－8	千葉大
東女体大	26－6	東学大
東女体大	30－2	千葉大
東学大	14－12	都留大
都留大	12－0	千葉大
日体大	21－8	東海大
日体大	37－8	茨城大
日女体大	19－11	東海大
日女体大	24－3	茨城大
筑波大	28－14	東女体大
筑波大	51－2	東学大
日体大	25－23	日女体大
東海大	23－4	茨城大
筑波大	34－15	日女体大
日体大	30－15	東女体大
東女体大	25－22	日女体大
筑波大	31－15	日体大

〔順位〕①筑波大②日体大③東女体大④日女体大

東北学生春季リーグ戦

（6月17、18、19日）

▼男子1部

東北大	18－17	福島大
学院大	43－30	山形大

岩手大 26－20 仙台大
学院大 28－25 東北大
福島大 21－20 岩手大
仙台大 41－26 山形大
東北大 25－16 山形大
学院大 32－19 岩手大
仙台大 33－27 福島大
岩手大 37－23 山形大
東北大 24－18 仙台大
学院大 38－26 福島大
福島大 36－28 山形大
岩手大 25－21 東北大
学院大 29－29 仙台大

〔順位〕①東北学院大②岩手大③東北大④仙台大⑤福島大⑥山形大

▼男子2部
弘前大 27－22 学院大工学部
宮教大 31－26 福祉大
秋田大 32－20 日大工学部
宮教大 38－25 弘前大
学院大工学部 27－24 日大工学部
秋田大 35－21 福祉大
弘前大 29－19 福祉大
宮教大 37－15 日大工学部
秋田大 24－22 学院大工学部
日大工学部 34－14 福祉大
弘前大 29－21 秋田大
宮教大 44－33 学院大工学部
弘前大 31－17 日大工学部
宮教大 27－19 秋田大
学院大工学部 22－22 福祉大

〔順位〕①宮城教育大②弘前大③秋田大④東北学院大工学部⑤日大⑥東北福祉大

〈女子〉
岩手大 31－3 福祉大
福島大 22－10 山形大
岩手大 29－9 山形大
岩手大 22－7 福島大
福島大 17－4 福祉大
山形大 13－8 福祉大

〔順位〕①岩手大②福島大③山形大④東北福祉大

男子23回、女子10回 全九州学生選手権

（6月17～19日）

〈男子〉

▼1回戦
福岡大 23－18 熊本大
九産大 33－13 熊本商大
福岡教大 39－13 熊本工大
西南学院大 28－20 琉球大
大分大 28－13 東海大
九州大 24－11 宮崎大
東和大 29－22 沖国大
久工大 28－22 鹿児島大

▼2回戦
福岡大 29－22 九産大
福岡教大 32－25 西南学院大
九州大 18－12 大分大
東和大 31－25 久工大

▼敗者戦
九産大 33－28 西南学院大
久工大 25－20 大分大

▼7位決定戦
大分大 22－21 西南学院大

▼5位決定戦
九産大 33－25 久工大

▼準決勝
福岡教大 20－19 福岡大
九州大 23－21 東和大

▼3位決定戦
福岡大 26－21 東和大

▼決勝
福岡教大 33（15－14、18－14）28 九州大

〈女子〉

▼1回戦
鹿児島大 32－13 琉球大

▼準決勝
九女短大 27－16 福岡教大
福岡大 30－9 鹿児島大

▼3位決定戦
福岡教大 20－14 鹿児島大

▼決勝
福岡大 31（17－8、14－13）21 九女短大

全国高校総体滋賀県二次予選会

（6月23日／彦根東高）

〈男子〉

▼準決勝
高島 28－14 米原
八幡工 15－14 彦根東

▼3位決定戦
彦根東 22－21 米原

▼決勝
高島 34（15－9、19－4）13 八幡工

〈女子〉

▼準決勝
彦根商 12－0 安曇川
彦根東 22－9 米原

▼3位決定戦
安曇川 16－8 米原

▼決勝
彦根商 27（13－3、14－2）5 彦根東

国体東京都予選

（7月6、7日／明大グランド）

〈男子〉

▼1回戦
三陽商会 24－18 ひょうたんク
三景 29－20 東京教員
中村荷役 32－18 東京重機
ラージェスト 22－13 神楽坂会

▼準決勝
三景 26－22 三陽商会
ラージェスト 21－20 中村荷役

▼決勝
三景 23－15 ラージェスト

〈女子〉

▼1回戦
東京重機 23－18 シュパース
武蔵野ク 28－21 東花ク

▼決勝
東京重機 38－20 武蔵野ク

第5回北信越クラブ選手権

（7月6、7日／北陸電力体育館）

〈男子〉

▼1回戦
小松ク（石川） 33－17 富山想球会（富山）

▼準決勝
小松ク 34－12 かつらお（長野）
柏崎ク（新潟） 33－23 光陽会（福井）

▼決勝
小松ク 41（24－12、17－7）19 柏崎ク

〈女子〉

▼リーグ戦
全福井（福井） 22－9 小松商OG（石川）
楼球会（富山） 21－6 小松商OG
全福井 14－13 楼球会

〔順位〕①全福井②楼球会③小松商OG

国体新潟県予選

（7月14日／柏崎工業高）

〈成年男子〉

▼1回戦
柏崎ク 不戦勝 小松造機
新潟教員ク 33－10 柏崎シルバー精工

▼決勝
柏崎ク 35（21－14、14－10）24 新潟教員ク

告知板

第５回ジュニア世界選手権の組分け決まる!!

第５回ジュニア世界選手権大会の参加国と組分けが決定した。

まず女子は、10月19日から30日までの12日間、韓国のソウルで開催されるが、参加16カ国が以下のようにA～Dまでの４組に分かれ、日本はA組になっている。

〈A組〉ユーゴスラビア、ポーランド、象牙海岸、日本
〈B組〉フランス、スペイン、韓国、中国
〈C組〉ノルウェー、ルーマニア、オランダ、ソビエト
〈D組〉オーストリア、デンマーク、東ドイツ、西ドイツ

一方男子は、12月７日から15日までの９日間イタリアで開催される予定だが、参加16カ国の組分けが以下のように決定、日本はC組でソビエト、チェコなどの強豪と闘うことになった。

〈A組〉スウェーデン、アメリカ大陸代表、東ドイツ、スイス
〈B組〉アイスランド、イタリア、西ドイツ、エジプト
〈C組〉ナイジェリア、チェコスロバキア、ソビエト、日本
〈D組〉デンマーク、ユーゴスラビア、スペイン、韓国

昭和60年度審判審査結果

A級合格＝24名中18名

（北海道）佐藤博明、林　俊夫
（岩　手）谷藤勝美
（東　京）酒井伸夫、小泉　功
（山　梨）小池道春
（石　川）加藤克滇
（愛　知）飼沼敏雄
（岡　山）船越雅彦
（鳥　取）万場幹男、里　和則
（広　島）渡辺功二
（山　口）岡村尚明
（福　岡）田原憲二、森山正治
（熊　本）阪本達也
（沖　縄）大城光隆、友寄隆男

B級合格＝64名中47名

（鳥　取）渡辺憲二、小沢敏正、進木文実
（山　口）長井康伸、佐倉弘之甫、阪本克彦、松本治雄
（香　川）佐藤利宏
（福　岡）高橋譲治
（熊　本）高野博光、大村守也
（沖　縄）知念正則、大城　伸
（富　山）山貫克郎
（三　重）夏目真治、松ケ谷光広
（京　都）八木弘信、大羽隆夫、小山　勉、茨木貴史
（大　阪）村上　潔、福井孝明
（和歌山）尾高義彦、田中洋光、吉田唯行
（滋　賀）橋山登志一、林田光秀、位田俊夫
（兵　庫）上野　赳、中島久明
（北海道）小越康雄、松　喜美男
（青　森）町屋明彦、佐々木孝之、関本和之
（宮　城）大河原活気
（東　京）兼田佳博、唯井裕史
（埼　玉）長瀬　浩、田中秀美
（茨　城）海野　孝
（神奈川）松本　広、本田義昭、石川泰弘、塩谷和雄、川本幸治
（千　葉）釜谷　泉

高校生、善意のファインプレー

宮城県協会の千田文彦氏より編集委員会に嬉しい便りが送られて来た。宮城県の高校ハンドボール部員たちの善意の行動で、河北新報に掲載された高校生たちの行動を要約してここにご紹介しよう。

「高校総体に出場のため古川市に来ていた仙台二高生が、同市内の病院に駆け付け、胃潰瘍で吐血した人に献血し、死直前の生命をよみがえらせた。

二高生の意意の献血で死を免れたのは色麻町の農業・高橋一さん（42）。高橋さんは胃潰瘍が悪化して５月31日に吐血。同日夕、古川市浦町の猪瀬医院に入院した。

ところが、診察中に再度吐血、血圧が40まで下がってショック状態となり、生命が危ぶまれた。病院で高橋さんと同じB型の血液を集めたが足りない。付き添っていた妻のゆき子さん（34）は色麻町の親類などに電話したが、すぐ飛んで来ても車で30分以上はかかる。『間に合わなかったらどうしよう』ワラにもすがる思いのゆき子さんは路上に飛び出し、通りがかった人に献血を頼んだ。しかし、みんな断られた。『駄目かもしれない』と思い始めたころ、ゆき子さんの訴えるような叫びを聞きつけた高校生たちがいた。翌日の総体出場のために近くの旅館に泊まりに来ていた仙台二高のハンドボール部員の３年生たち。「大変だ。B型の人はいないか」一緒に来ていた部員全員に号令がかかった。

その時「ハイ」と手を挙げたのが27人のうちB型だった２年生の佐藤量知君（16）と前田修一君（16）。二人は早速先輩たちと病院に駆け着け献血した。「あっという間のことだったし、何も特別なことは考えなかった」と二人。病院を出る時に渡されたお礼も受け取らず、旅館に戻り翌日の試合に臨んだ。

高橋さんは翌日７時間の大手術を受けたが、その後の経過は良好で、快方に向っている。「あの時は新鮮な血が緊急に必要だった。すぐに提供してくれた二高生のお陰で助かった」と同医院の木村信夫院長は言う。

二人の名前を知らなかった高橋さん夫婦は「今、こうしていられるのも二人のお陰」と感謝でいっぱい。体が回復し次第、二人とクラブの人たちにお礼に行きたいと語っている。

スポーツが好き。汗が好き。

笑顔があります。涙があります。
躍動があります。記録への挑戦があります。
チームプレイの和があります。
からだを動かしていると
人生の大切なものがたくさん見えてきます。
新日鉄は、スポーツを通し
心身を鍛える皆様に声援をおくります。

新日本製鐵

（財）日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第二四三号
昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可
昭和六十年七月二十五日 印刷 昭和六十年八月一日 発行
東京都渋谷区神南一－一－一
電話 代表（481）二三六一
振替 東京 六－五八三四八番
編集兼発行人 大野金一
定価三百五十円（年間購読料三千三百円）